

石川

もつと



石川でしかできない上質な旅



石川県観光PRキャラクター
「ひやくまんさん」

石川の観光を楽しく、便利に

旅のご相談、観光情報は「金沢駅観光案内所」「金沢中央観光案内所」で石川県全域の観光案内に加え、金沢市内周遊バスの1日フリー乗車券・SIMカード・食事クーポンの販売、当日宿泊予約の案内、傘・長靴・車椅子の無料貸し出しなどのサービスを提供。英語による観光案内も行っています。



金沢駅観光案内所

金沢駅に着いたらまずこちらへ！

宿泊先への手荷物配送サービス「手ぶら観光」を実施
《手ぶら観光》

旅先での大きな荷物は困りものですが、荷物を金沢駅で預ければ、その日のうちに宿泊施設まで配送してくれるサービスを利用すると便利（※宿泊者のみのサービス）です。エリアは石川県内全域と福井県あわら温泉です。

【料 金】荷物1個700円～
（配送エリアにより異なる）

【受付時間】8:30～15:00
（届け先により12:00まで）に預け、
宿泊施設にお届け

●料金等変更となる可能性があります。事前にご確認ください。



〒920-0858 石川県金沢市木ノ新保町1-1 JR金沢駅構内
TEL.076-232-6200 FAX.076-232-6210
◇営業時間／8:30～20:00 ◇休業日／年中無休

金沢中央観光案内所

週末を中心に
伝統文化などの実演を実施

ご利用に便利な金沢市内中心部の南町（尾山神社向かい）に位置します。

《手荷物預かり》

【料 金】荷物1個500円
【受付時間】10:00～20:30

（受付時間終了までに手荷物の引き取りをお願いします）

●料金等変更となる可能性があります。事前にご確認ください。

〒920-0919
石川県金沢市南町4-1
TEL.076-254-5020
FAX.076-254-5028
◇営業時間／10:00～21:00
◇休業日／年中無休



伝統文化などの実演の
詳細はこちらから

【表紙の帯デザインについて】



江戸時代から昭和初期までの「加賀のお国染」と言われる染織品、約2万点にのぼる花岡コレクションより、型染に使われていた絵柄を用いています。「お国染」とは、加賀友禅の起源とされる加賀地方に昔から伝わる独自の染め技法で、百万石の豊かなお国柄の中で培われた高い技術が反映されています。

観光ガイドブック「もっと石川」を手にとれたみなさまへ

石川県は、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、現在みなさまにお伝えできる観光情報につきまして、日々変化する状況にあります。

この観光ガイドブック「もっと石川」は、能登半島地震発生前の2023年12月時点での編集内容に、一部加筆・内容変更を行い発行しており、更新されていない情報があることを、ご理解いただけたら有難く存じます。

多くの方々からのご支援と見守りをいただきながら、ひきつづき石川県の魅力の発信に、つとめてまいります。

もっと石川CONTENTS

本物の食を探し求める

- もっと① 極上の食文化を楽しむ 2
- もっと② 食べごろを見極めた職人のすし 6
- もっと③ 食を引き立てる地酒 10

伝統工芸を極める

- もっと④ 作家や職人の技を知る 12
- もっと⑤ 産地で学び、理解を深める 14

歴史ストーリーをめぐる

- もっと⑥ 加賀百万石の下で栄えた武家文化 16

石川の日本遺産をめぐる

- もっと⑦ 物資と文化を運んだ北前船の足跡 20
- もっと⑧ 古代より受け継がれる小松の石文化 22
- もっと⑨ 灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～ 25

大自然の魅力を体感

- もっと⑩ 世界農業遺産の島にステイする 28
- もっと⑪ 白山に登る 30

風景を切り撮る

- もっと⑫ 絶景に出会う 32

石川を深く知る新しい観光スタイル

- もっと⑬ アーキテクチャ・ツーリズム 36

名作の情趣を味わう旅

- もっと⑭ 名作の舞台をめぐる 39
- もっと⑮ 松尾芭蕉の足跡をたどる 42

金沢港発着の贅沢な旅

- もっと⑯ 石川県からクルーズの旅を極める 44

県民気分で滞在する

- もっと⑰ 里山暮らし気分を堪能 48
- もっと⑱ シーン＆目的で選ぶ宿泊スタイル 50



一部のページでは、能登を応援してくださるみなさまと能登をつなぐ情報として、「#能登のために」コラムを2024年2月時点の内容で掲載しています。

令和6年1月に発生した能登地方を震源とする地震で被災された方々を支援するため、石川県では、日本赤十字社石川県支部及び石川県共同募金会と連携し、令和6年1月4日から令和6年12月27日の間、義援金を受け付けています。

詳しくはこちらから



石川の観光情報が盛りだくさん！ ほっと石川旅ねっと

石川県のエリア別、ジャンル別の観光スポットやイベント、モデルコースなどを紹介しています。スマホのGPS機能を使えば、現地で周辺情報の検索もできます。

こちらからアクセス！



各種石川県の
観光パンフレットも
WEBでも
ご覧いただけます！

他にもさまざまな
パンフレットを公開中！





料理と器が奏でる 加賀料理の神髄

- 器という「着物」によって
- 華麗に変身した郷土料理

「加賀料理」は繊細な技で食材の良さを極限まで引き出し、料理や季節と調和するように器の色や形、素材を吟味し、息をのむような美しさで盛りつけます。

たとえば「治部煮」と「鯛の唐蒸し」は「加賀料理」を代表する料亭料理ですが、もともと家庭でも食された郷土料理でした。多くの料亭では「治部煮」は薄手で口が広く、底が浅い「治部椀」と呼ばれる専用の漆器で供し、同様に「鯛の唐蒸し」は極彩色に彩られた九谷焼の大皿に豪快に盛ることで、郷土料理が華麗な「加賀料理」へ変身していくのです。

「器は料理の着物」と言ったのは陶芸家であり、石川県とゆかりが深く、美食家としても知られる北大路魯山人です。ファッションが着る人を引き立てるように、料理もまた、器によってその美しさをより際立たせ、器の方も料理が盛られることでその真価を発揮します。

「加賀料理」は九谷焼や輪島塗、金沢漆器、山中漆器などの伝統工芸品を身にまとい、共演することで、文化・芸術のレベルまで引き上げられていきました。料理と器が奏でる興趣にこそ、加賀料理の神髄があります。



四季折々の食材に恵まれ、数々の伝統工芸が息づく石川では、加賀百万石の文化にならない、その盛りつけに九谷焼や輪島塗の器などを使った優雅な今日の「加賀料理」が築かれました。

- 百万石の伝統と文化を目で味わい、
- 季節ごとの豊かな幸を舌で味わう

古き良き日本を思い起こさせる伝統が数多く残る石川。この地を訪れる観光客の多くが楽しみにする「加賀料理」もその一つでしょう。加賀料理というと、漠然と「加賀百万石の豪華な料理」とイメージされますが、実は決まった定義がな

く、加賀料理という名前自体、いつごろ定着したのか、よく分かっていません。

命名の由来には諸説ありますが、そのなかに吉田茂元首相の長男で、小説『金沢』を書いた作家、吉田健一が名付け親だという説があります。食通で知られる、この吉田健一が定宿にしていたのが料亭「つば甚」でした。もしかすると、料亭で供された料理がヒントとなって「加賀料理」

というネーミングが発想されたのかもしれませんが。

「つば甚」の料理長、川村浩司さんは「加賀料理」をこのように考えています。「百万石の伝統が育んできた、加賀の食文化そのものです。豊かな自然がもたらす四季折々の海の幸、山の幸を尊重しながら料理し、料理が最も引き立つように器に盛ります。加賀料理とは器とともに目で味わい、舌で味わうものなのです」。



加賀百万石が世界に誇れる料亭の美学

加賀百万石以来の歴史と伝統文化が凝縮された石川の料亭。料理はもちろん、器や座敷、調度品、庭、女将の立ち振る舞いに至るまで、この地ならではの「もてなしの心」が込められています。

- 武家文化のもと生まれた
- 最上級のもてなしの心

石川県内でも特に金沢は料亭の多いまちです。料亭のみが所属できる「金沢市料理業組合」への加入店が13軒(2024年2月現在)あり、人口50万人弱の都市で、これだけの料亭を持つのは全国でもきわめて稀な例といえるでしょう。



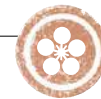
藩政期、あるいは明治以来の伝統を持つ老舗料亭には、名だたる文人墨客が愛用した座敷や管理の行き届いた庭園が今も残され、掛け軸や器類などの調度品、美術工芸品とともに、時代を経た今も料亭の一部として利用されています。それらは、まさに加賀百万石以来の歴史を知る「生き証人」のようなものといえます。

- 風土が育んだ
- 気配りと立ち振る舞い

料亭でいただく料理は、食材や盛り付け、器に至るまで、春夏秋冬の旬を表現し、日常生活で忘れがちな季節感を思い出させてくれます。そして、忘れてはならないのが、女将や仲居たちの気配りや立ち振る舞い、言葉遣いです。

たとえば金沢では、藩政期以来発達してきた茶の湯にも通じる「もてなしの心」が脈々と息づいており、それが「金沢しぐさ」ともいわれる所作にあらわれています。

とはいえ、料亭と聞くと敷居が高く、「一見さんお断り」というイメージが依然としてあるのも事実でしょう。けれどご心配なく。石川の料亭は、どこでも初めての客も温かく迎えてくれます。



石川の「美味」をささえる

その1

石川県では、魅力あふれる県産農林水産物を、地域の宝とするための取り組みを進めています。2022年に県独自の優れた農林水産物を「百万石の極み」と認定し、統一ブランド化。ルビーロマンや能登牛、加能ガニなど20品目が選出されました。いずれも里山里海の豊かな自然にはぐくまれ、それぞれに優れた特長をもち、さらに厳格な品質基準を満たした品目だけが「百万石の極み」として認定されています。「百万石の極み」認定品目を扱う販売店舗や飲食店等には、ロゴマークの掲示やのぼりが設置されています。石川を旅する際には、「百万石の極み」をぜひ味わってみてください。



百万石の極み

「百万石の極み」に認定されたことを表すロゴマーク



石川県農林水産部ブランド戦略課
☎076-225-1614 詳しくはこちらから▶



その2

「加賀料理」の無形文化財への登録をめざし、石川県では「治部煮」や「鯛の唐蒸し」などに代表される加賀料理の歴史的背景やおもてなしの場でのしつらえなどの調査を進めています。さらに、石川の食文化を担う全国に誇れる人材を顕彰し、その技術の継承と後継者育成につなげるために「いしかわの食の巨匠顕彰制度」を創設し、石川の食文化の充実をはかります。

「魚・米・水・技」 『四位一体』が石川の「すし」



石川を訪れた観光客に食べたいものを聞けば、「すし」と答える人は多いでしょう。「石川のすし」は豊かな自然と歴史が育んだ魚・米・水・技の「四位一体」が織りなす「食の芸術品」です。

- 「新鮮=美味」にあらず。
- 最もおいしい瞬間に提供

すしの違いというと、「回転するすし」と「回転しないすし」程度に思っている人が多いかもしれませんが、それぞれに個性がありますが、人々を魅了する「石川のすし」の個性とは一体なんなのでしょうか。

すしネタは近海で獲れた地魚を中心に、産地直送の新鮮なものを吟味して仕入れている一と

いのであれば、あるレベル以上の店なら、全国どこでもやっていることでしょう。それ以上のことをやっているから、「石川のすし」は「石川のすし」たりえているのです。その秘密はいくつもあります。

日本人は「魚は新鮮が一番」と信じている傾向があります。しかし、石川のすし職人は「新鮮=おいしい」とは安易に考えていません。鮮度を「食感がコリコリしている」と表現することがありますが、実はこの形容は天然物の専売特許ではなく、養殖物だって活け締めしてすぐ

は「コリコリしている」のです。

石川のすし職人は、お客が食べる瞬間に最高の状態になるように、材料を吟味し、手間をかけて仕事をしています。たとえ同じ魚でも、季節や大きさが違えば、脂の乗り方や身の縮まり方が異なってきます。それを慎重に見極めながら、塩の量や寝かす時間などを微妙に変え、魚それぞれの最高の状態、すなわち、「魚のうまみが最も増した状態」を引き出していくのです。

- 米どころ・水どころ
- 工芸王国が生んだ「すし」

しかし、おいしい魚を食べるだけなら、刺身でも事足りるでしょう。「すしはネタ四分、シャリ六分」と言われるように、おいしいすしは、シャリとすしネタの絶妙なバランスから生まれます。そのどちらが欠けても、おいしいすしとはなりません。

石川は、日本海でも有数の好漁場に恵まれた場所であるとともに、おいしい米のとれる「米どころ」、さらに名水が欠かせない日本酒において、石川の地酒が確固たる評価を得ていることでもわかるように、「水どころ」でもあります。よい米、よい水があって、初めてよいシャリはでき上がります。「魚・米・水」が織りなす三位一体が「石川のすし」が特別である2つ目の理由です。

むろん、すし職人の技も忘れてはなりません。石川県には今も数多くの伝統工芸が息づき、そうした歴史的土壌が育んだ美的センスはすし職人にも受け継がれています。

目の前に置かれた1貫のすし。それは確かな職人技と魚に関する深い造詣、豊かな感性が紡ぎ出した、まさに「食す芸術品」といえるでしょう。



魚のよさにふんぞり返らない 基本にこだわる石川のすし職人

日本海の新鮮なネタを最高の状態で提供するために、石川のすし職人は知恵を絞り、さまざまな趣向を凝らしています。石川県鮭商生活衛生同業組合の前理事長、「千取寿し」のご主人、吉田勝昭さんにこだわりの一端を聞きました。

- シャリ・ガリ・海苔の
- 「3つの「り」」を重視

「いくら輸送手段が発達したとはいえ、石川に来なければ「本当のおいしさ」を味わえない魚介類はブリや甘エビをはじめ、たくさんあり

ます。でも、石川で魚がよいのは当たり前。このすし職人は、素材のよさにふんぞり返っていません」と語るのは、金沢で昭和28年創業の「千取寿し」2代目、吉田勝昭さんです。石川のすし職人の多くは、ネタの吟味もさることながら、「3つの「り」」、つまり「シャリ・ガリ・海苔」を大事にしていると言います。いずれも、それ自体では商品にならないもの。でも、だからこそ、基本で手を抜いてはいけない、と考えているのです。

たとえば、「千取寿し」のシャリは「地獄炊き」と呼ばれる方法で釜と薪を使って炊いています。こうすることで、米のうまみを閉じ込めつつ、粘りを抑えたスツクリとしたシャリが炊き上がるのだそうです。「利」を考えるのであれば、電気炊飯器を使った方がよほど経済的です。それでも創業からずっと地獄炊きにこだわるのは、おいしいシャリができるからなんです。

使用する井戸水は、近所の酒蔵が仕込みを使うのと同じ白山の伏流水というから、なんとも贅沢。そんな、「これだけは譲れない」「とことん、こだわっている」「どこにも負けない」という自負をもった店主たちが切り盛りしているこそ、石川のすしといえます。



百万石の鮭をベースに、「百万石の極み」と「百万石乃白」を使った、石川の花や山の幸を存分に堪能できる鮭会席「百万石の鮭・幸」コース

- 「煮きり」使わず
- 地物の醤油で勝負

もう一つの「り」にもこだわりがあります。全国のすし店では、みりんやダシなどを加え、醤油独特の風味を消した「煮きり」を使うことが一般的ですが、石川では「煮きり」を使わない店が多いとのこと。地物魚やシャリと相性のよい「じわもん」の醤油がすでにあることもあって、わざわざ「煮きり」を使う必要がありません。

石川のすし職人は、シャリを握る加減は「強からず、弱からず」を心がけています。指先でつまんで口元に運ぶまでの間に崩れない。そして、すしを口に入れた瞬間、ふんわりとほぐれて口の中で溶けていく。そのあんばいはこれぞすし職人の至芸です。

腕自慢、味自慢の店主や気さくな職人さんと、カ

ウンター越しに交わす会話も大きな魅力といえるでしょう。



石川のすしを堪能するなら 「百万石の鮭」

旬の地魚を中心に、こだわり抜かれた特選10貫セット「百万石の鮭」が、石川県内の参加加盟店にて味わうことができます。丹精込められた地元米のシャリに、石川だからこそ提供できる最高の旨さと奥深さが自慢のすしです。また、百万石の鮭をベースに、石川独自のブランド食材を使った料理と、石川の酒米による地酒を含む贅沢な鮭会席「百万石の鮭・幸」を提供する店舗もあります。

※価格は提供店舗ごとに異なります。
店舗一覧および詳細はこちらから
ご確認ください。

※2024年2月現在の情報です。





純米大吟醸を搾る。この様子は映像での鑑賞となるが、搾りたての酒を試飲させてくれる

日本酒は米と水と微生物に人の力が加わって造り出されるもの。石川県は「五百万石」「石川門」など酒造好適米(酒米)の名産地であり、最高峰の酒米「山田錦」、「ダイヤの原石」と期待される石川県の新しい酒米「百万石乃白」を使用するなど、石川県の酒蔵は良質な酒米にこだわっています。水は手取川をはじめ清らかで豊かな伏流水に恵まれ、さらに、高い技術を持つ能登杜氏の存在も大きく、名実ともに日本を代表する酒どころと言われます。

- 里山里海の幸と渡りあう
- 濃醇旨口の酒が多い

和食の基本、醤油、味噌、米酢、みりんはいずれも麴による発酵調味料で、日本酒と和食の相性のよさは言わずもがな。ふぐの子糠漬けやかぶら寿しなど石川県独特の発酵食とのマッチングも抜群で、日本海の幸や里山の幸を一層引き立ててくれます。

石川県の酒は「特定名称酒※」が占める割合がとて高く、純米酒の比率は全国でもトップクラスです。いい材料を使い、手間暇をかけて真面目に造られる、それが石川の酒の特徴と言えます。

そんな石川の酒の神髄を知るには、酒造りを行っている現場、つまり酒蔵を見学するのが近道です。

※普通酒に対し、「吟醸酒」「純米酒」「本醸造酒」は特定名称酒と呼ばれ、それぞれの原料・製造方法などの条件が定められています。

酒蔵

石川の食文化の奥義を知る

- 自然と対話しながら醸す、
- 神事とされる酒造り

金沢市にある「福正宗」「加賀鳶」などの銘柄で知られる福光屋は、生産量1万石以上の規模では日本で初めて純米蔵となった酒蔵です。300株もの酵母を保存して、飲み手の好みやシーンにあわせて選べる多彩な銘柄を展開しています。

福光屋の酒蔵見学は酒造りシーズンの11月～3月に開催。見学は有料ですが、他にはなかなか中身の濃い見学ができると人気です。自然の摂理と真正面に向き合う日本酒造りを間近で観察することで、酒造りを深く理解できます。さらに季節限定酒や定番のお酒を、専属ガイドなど



福光屋 MAP▶②金沢市街 C-1
●金沢市石引2-8-3 ☎076-223-1117
■酒蔵見学
純米造りの日本酒を身近に感じていただくための酒蔵見学を開催
(蔵内コース)11月～3月下旬
(啗き酒コース ベーシック)通年
(啗き酒コース プレミアム)通年 など
●各コースの開催日程、開催・所要時間、参加費などの最新詳細情報はオフィシャルサイトでご確認ください。いずれも予約制

の説明を聞きながら飲み比べ、日本酒の高度な知識と感覚が体得できます。石川の食に欠かせない地酒を究めるなら、酒蔵に向かい酒造りのプロ(エキスパート)の話に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。



重要な工程「酒母造り」を間近で見学



金沢地酒蔵 MAP▶②金沢市街 A-2
●金沢市木ノ新保町1-1(金沢百番内)☎076-260-3739
●8:30(バーは11:30)～20:00 ☎不定休
金沢駅「あん」とある「金沢地酒蔵」のバーコーナーでは石川の地酒が飲み比べできるほか、県内蔵元の約400種類のお酒を販売



予約すれば酒蔵見学ができる蔵元

●長生舞(久世酒造店)	河北郡津幡町清水イ122	☎076-289-2028	300円(試飲可・買物時に割引利用可)。通年受付・要予約(12月～2月がベスト)。日曜休
●加賀鶴(やちや酒造)	金沢市大樋町8-32	☎076-252-7077	完全予約制につき要問合せ。酒蔵見学と試飲1,000円(買物時に割引利用可)。日曜・祝日休
●御所泉(武内酒造店)	金沢市御所町イ22乙	☎076-252-5476	見学日時は応相談
●夢醸(宮本酒造店)	能美市宮竹町イ74	☎0761-51-3333	酒蔵見学と試飲500円(買物利用可)。要予約。土曜は不定休、日曜・祝日休
●神泉(東酒造)	小松市野田町丁35	☎0120-47-2302	要予約。酒蔵見学(試飲付き)1,000円
●加賀ノ月(加越)	小松市今江町9-605	☎0761-22-5321	10月下旬～4月中旬受付。土・日・祝日休。15名まで。要予約
●春心(西出酒造)	小松市下栗津町24	☎0761-44-8188	日本酒飲み比べ(有料)。要予約。木・日曜休。蔵CAFEぐるり土曜営業

※上記の情報は2024年2月現在です。記載がないものは見学・試飲は無料。
※見学は必ず予約をお願いします。直前の予約は対応できない場合もありますので、早めのご予約を。年末年始(一部を除く)は休業です。繁忙期など見学できない日もあります。
※断りがないものは通年見学受付していますが、酒造り時期以外は仕込み作業を見ることはできません。詳しくは各蔵元へお尋ねください。



加賀友禪を
通じて知る
作家の技と心

加賀友禪の技法を使った彩色体験の様子

気品ある立ち姿が美しい加賀友禪のきもの。一反の白生地から一枚のきものが完成するまでには多くの工程があります。手描き加賀友禪の中でも最も華やかなのは、絵模様を染め上げる彩色の工程で、加賀友禪作家が丁寧に筆を走らせ、さまざまな色を挿していきます。きものを染めるのと同様の本格的な彩色を体験し、作り手の技と心を身近に感じてみませんか。

■ 加賀友禪が生まれる場所を訪ね
■ 知的好奇心を満たす

兼六園や金沢21世紀美術館から歩いて10分。金沢市本多町界隈は、かつて加賀藩家老・本多家の下屋敷があった地区で、今も細い路地が続く金沢らしい古いまちなみが残ります。そんなまちの一面にある毎田染画工芸は、三代続く

加賀友禪作家の工房です。三代目の毎田仁嗣さんは、「ものづくりが暮らしの中にあるのが金沢。工芸という生業が日常の中でごく自然に、いきいきと営まれているのは、他の地域にはない魅力です」と語ります。加賀友禪は、各工程を専門の工房で行う分業制が基本ですが、同工房では作家の目が行き届く中で全工程を一貫して行っています。



毎田染画工芸の2階にオープンした加賀友禪の「Glass Yuzenギャラリー」。ガラスに加賀友禪の生地を熱圧着して仕上げた巨大なパネルが、バックライトの光で美しい模様を浮かび上がらせている

そもそも「友禪」とは、「友禪染め」を略したことばで、絵模様の輪郭に糊を置くことで色がにじむのを防ぎ、思いのままの絵を布に染める技法のこと。本来なら制作には複雑な工程と職人技が必要とされますが、同工房では、加賀友禪の魅力を知ってもらうきっかけになればと、本格的な友禪染に挑戦する体験を受け入れています。自ら筆を持つ前に、毎田さんや職人さんの説明に耳を傾けながらの工房見学もでき、加賀友禪の技術とストーリーのすべてが集約されています。

「伝統を守ることと新しいことに挑戦することの両輪で、加賀友禪は今に引き継がれ、そして次の時代にも継承されていきます」と毎田さん。人の手でクリエイティブなものが生み出されていく、そのリアルな現場を見て理解して、まるごと体験してください。



彩色体験で染めた生地をガラスに熱圧着し、オリジナルのガラス皿に仕上げてもらえる

加賀友禪染め体験

糊置きされた生地に友禪染を施す体験（加賀友禪ガラス皿・風呂敷制作など）ができるほか、ピアス・イヤリング用彩色体験、工房見学もあり（2024年2月現在）。詳細は事前にお問い合わせください。

毎田染画工芸
MAP▶②金沢市街C-1
●金沢市本多町3-9-19
☎076-221-3365

さらにもっと!

石川の伝統的工芸品を
まとめて知るなら!

「いしかわ生活工芸ミュージアム」では、県内伝統的工芸品36種類の魅力を紹介する常設展示のほか、伝統工芸の「いま」を紹介する様々な企画展を開催しています。また、毎週土・日の実演・体験や企画展ごとのワークショップなど、各種工芸イベントを楽しむことができます。



ミュージアムショップで工芸品選びが楽しめる

いしかわ生活工芸ミュージアム MAP▶②金沢市街B-1
●金沢市兼六町1-1 ☎076-262-2020
●9:00~17:00 ③第3木曜(4月~11月)、毎週木曜(12月~3月)、年末年始 ※祝日の木曜除く ④1階:無料 2階:18歳以上260円、65歳以上210円、17歳以下100円、6歳未満無料



左:「色絵百花手唐人物図大平鉢」(古九谷)
右:「百合図平鉢」(吉田屋窯)
いずれも石川県九谷焼美術館蔵

九谷焼のふるさとを訪ね、本物にふれる

石川が世界に誇る伝統工芸のひとつ「九谷焼」。江戸期に山中温泉九谷の地で始まり発展していきました。発祥の地ならではの九谷の歴史を辿りながら、本物に出合う楽しみを見つけます。

■ 九谷焼の誕生と魅力

九谷焼は、江戸時代初期に大聖寺藩領内九谷村(現在の石川県加賀市山中温泉九谷町)で作られた前田家の御用窯です。焼かれた「地名」をとってその名が付けられました。最も早い時期に作られたこれらの九谷焼を今は「古九谷」と呼びます。寛永16(1639)年に大聖寺藩が創設されたと同時に、大聖寺藩邸から約16km離れた小松城には加賀藩主であった前田利常(利治の父)が隠居しました。時の前田家当主・利治(21才)はまだ若く、利常(46才)の影響下、古九谷が作られたものと考えられています。

寛文12(1672)年の『加賀往来』では「大正

持茶碗」、貞享3(1686)年の『臘月庵日記』では「水さし九谷焼」、「茶碗九谷」、元禄末(1700)頃の『三州名物往来』では「大聖寺焼染附茶碗」とあります。古九谷は、大聖寺(大正持)焼や九谷焼と呼ばれていたようであることが分かります。

古九谷が最初に焼かれたのがいつなのか、そしていつまで焼かれていたのかは実ははっきりとは分かっていません。今に残された伝世品の中では「承應式歳」の銘があるものが一番古いことから、少なくとも承応2(1653)年にはすでに焼かれていたと言えます。また、古九谷の活動について記した江戸期の複数の文献のうち、享保21(1736)年に出された『重修加越能大路水経』には「今は絶えたり。」との記述があることから、享保21(1736)年

にはすでに古九谷は絶えていたことがわかります。文化2(1805)年には若杉窯が、文化4(1807)年には春日山窯が開窯しました。これらの窯を皮切りに、明治に至るまで少なくとも「17種類」の九谷焼の窯々が現在の石川県内で焼かれ、これらを「再興九谷」と呼びます。

古九谷の魅力はなんと言ってもまずその構図にあります。画面構成は主に2種類で、一つは器一面に絵画を描く「総絵」、もう一つは見込み(中心部分)に主題を描きその周辺に小紋を埋める「二段構成」のもので、画題には山水風景図、植物図が最も多く、幾何学文、人物・動物図等には優れたものが認められます。主に赤、緑、紫、紺青、黄の色釉薬を用いて作られていますが、赤以外の色が分

厚く盛り上げられているため、発色が良く、光沢度の高いことが特徴です。古九谷は、出来栄の良さとその希少価値により、日本の焼物の中でも特に高い評価をされています。

「古九谷は実は有田で作られた焼物である」という古九谷伊万里説もありますが、古九谷の伝世品が石川県を中心に特に大聖寺に多く残っていることや2万点を超える出土資料が九谷村の九谷古窯跡で確認されていること、九谷焼の技法が現代まで石川県のみで継承されていることはまぎれもない事実です。何よりも「古九谷」という名前そのものが真実を物語っているのではないのでしょうか。

古九谷は今も多くのの人々を魅了してやみません。

文/石川県九谷焼美術館 副館長・学芸員 中越康介



九谷焼窯跡展示館 MAP▶⑥加賀周辺
●加賀市山代温泉19-101-9 ☎0761-77-0020
⑨9:00~17:00 ④火曜(祝日開館)
①一般350円、75歳以上170円、高校生以下・障がいのある方無料
江戸後期に築かれた吉田屋窯の跡(国指定史跡)を発掘された状態のまま公開。九谷焼としては現存最古の登り窯もある。



九谷磁器窯跡
MAP▶①A-4
●加賀市山中温泉九谷町
☎0761-72-7888
(加賀市文化振興課)

山中温泉より大聖寺川沿いにさかのぼった山麓にある「九谷焼」が初めて作られた場所。日本最初期における磁器生産の様相を呈した遺跡として、昭和54(1979)年に国指定史跡。



石川県九谷焼美術館 MAP▶⑥加賀周辺
●加賀市大聖寺地方町1-10-13 ☎0761-72-7466
⑨9:00~17:00 ④月曜(祝日開館)、年末年始は開館 ①一般560円、75歳以上280円、高校生以上280円、障がいのある方無料 ※特別展は要別途
古九谷をはじめとし、吉田屋などの再興九谷諸窯、近現代九谷を網羅的に展示する日本で唯一の九谷焼の専門美術館(登録博物館)。



魯山人寓居跡いろは草庵 MAP▶⑥加賀周辺
●加賀市山代温泉18-5 ☎0761-77-7111
⑨9:00~17:00 ④水曜(祝日開館)
①一般560円、75歳以上280円、高校生以下・障がいのある方無料
芸術家であり美食家として知られる北大路魯山人が半年ほど滞在した寓居を当時のままに公開。この間、九谷焼を学んだ。

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ

● 九谷焼の聖地を訪ねる旅

加賀温泉駅(午前発) 車15分 徒歩8分 徒歩3分 徒歩3分
九谷焼窯跡展示館 窯元須田菁華 山代温泉古総湯 魯山人寓居跡いろは草庵
九谷焼窯跡展示館 九谷磁器窯跡 加賀温泉駅(もしくは加賀温泉郷泊)
車15分 車40分 車40分



※車の所要時間はおおよそのものです。

加賀百万石の下で
栄えた武家文化



金沢城と兼六園、
百万石の武家文化の中心を訪ねる

今日の石川に息づく伝統工芸や芸能の多くは、加賀藩政時代に取り入れられたものです。2020年には江戸初期の創建とされる「鼠多門」が金沢城公園に復元。金沢城公園と尾山神社を結ぶ「鼠多門橋」が完成。長町武家屋敷跡界隈から尾山神社を経て金沢城公園、兼六園、本多の森公園に至る、加賀百万石回遊ルートを中心にまちを丹念に歩けば、加賀の武家文化の素晴らしさに出会えます。

■ 築城の歴史がここにある

加賀前田家102万石の支配地は加賀・能登・越中の3カ国にまたがり、5万石の本多家、3万石の長家など1万石以上の家老が8家もあり、足軽まで加えると約2万の武士・軽輩が城下町に屋敷を構えていました。そのど真ん中に金沢城があり、政治・文化の中心をなしていました。小立野台地先端にあった金沢城は、藩祖前田利家が百間堀を掘り本丸に高石垣や天守を築いた頃、台地

から切り離され四方に堀をめぐらす独立の城地となり、それから280年、変わらず前田家の城、武家の拠点として歴代藩主がここに君臨したのです。

なかでも石川門は、江戸中期の火災で焼失し1788(天明8)年に再建され、今も城下を見守る金沢城のシンボルで、城内に残る最古の歴史遺産(重要文化財)です。城門として防御機能を当然備えています。白壁と鉛瓦、海鼠壁のつくる美観は金沢らしい意匠といえます。石川門から三の丸広場に進むと、河北門、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門が復元されており、江戸時代



金沢城公園 MAP▶②金沢市街 B-1-2

右から、発掘調査や絵図文献資料などを元に復元された河北門・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門
●金沢市丸の内1-1 ☎076-234-3800 ③3月1日～10月15日 7:00～18:00、10月16日～2月末日 8:00～17:00、菱櫓など内部は9:00～16:30
④年中無休 ●入園料無料 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門は大人(18歳以上)320円、小人(6歳～18歳未満)100円 ※河北門、鼠多門は無料

金沢城公園・兼六園に関するお問い合わせ

●石川県金沢市兼六園管理事務所 ☎076-234-3800

※「令和6年能登半島地震」の影響により、金沢城公園・兼六園では、一部エリアへの立ち入りを禁止しています。最新の情報はWEBサイトをご確認ください。

にタイムスリップした感覚を覚えます。明治時代に陸軍の兵営となり、戦後は金沢大学のキャンパスであった歴史を忘れ、江戸時代の武士として登城してきたような錯覚にとらわれるでしょう。

復元された橋爪門は、殿様の住む二の丸御殿に至る正門です。ここを起点に本丸を散策すると兼六園や城全体を俯瞰でき、二の丸の西側にある玉泉院丸庭園も一望できます。



辰巳用水と兼六園噴水

兼六園の噴水は、金沢城二の丸に辰巳用水の水をあげるため、試作したものとされています。現存する日本最古と言われる噴水で、自然の水圧によって水が吹き上がっています。



兼六園 MAP▶②金沢市街 B-1

国の特別名勝。唐崎松の雪吊り、根上松の奇観、初代が天然記念物だった兼六園菊桜など季節ごとに数々の見どころがある。
●金沢市兼六町1 ☎076-234-3800 ③3月1日～10月15日 7:00～18:00、10月16日～2月末日 8:00～17:00 ④年中無休 ●大人(18歳以上)320円、小人(6歳～18歳未満)100円

■ 兼六園から成巽閣へ

石川門の向かい側に日本三名園のひとつ、兼六園が広がります。5代綱紀が手がけた城の外庭で、藩主の別荘があり接客の場でした。夕顔亭・翠滝付近は創建当初の姿がよく残り、霞ヶ池・微軫灯籠・唐崎松付近には12代斉広の隠居所(竹沢御殿)が作られました。斉広はこの庭を愛し「兼六園」と命名、文人大名として知られる松平定信に揮毫を頼んでいます。斉広の死後、13代斉泰は父斉広を慕い、霞ヶ池や榮螺山をつくり「兼六」の名に恥じない庭作りにつとめました。

兼六園の東隅にある成巽閣は斉広夫人のため1863(文久3)年、斉泰がつくった母君の御殿です。今も飛鶴庭など武家の庭園文化の奥深さを堪能できます。女性の御殿らしい細やかさと紅殻やウルトラマリブルーの色壁など大胆な彩色に圧倒されます。

■ 石川県立美術館・国立工芸館へ

成巽閣の表玄関を出て海鼠壁の辰巳長屋に沿って南に向かうと、石川県立美術館と国立工芸館が正面に見えてきます。国立工芸館の建物は、明治期の金沢城二の丸跡に置かれた旧陸軍の第九師団司令部庁舎(1898〔明治31〕年創建)と、1909(明治42)年に造られた金沢偕行社

(陸軍将校の社交館)の建物を移築し再活用しました。左手が旧陸軍第九師団司令部、右手が旧陸軍金沢借行社です。今回の移築にあたり、創建時の外観色彩が判明したので、本来の色に戻し、第九師団司令部庁舎は移築する過程で規模が縮小されたのを元のサイズに戻し、かつてのプロポーションに復活させました。工芸館にふさわしい凛とした雰囲気、多くの入館者を迎えています。隣の石川県立歴史博物館のレンガ建物も旧陸軍の兵器庫の転用ですから、明治・大正期の洋風建築をこの界隈で楽しめます。

■ 尾山神社から武家屋敷跡へ

金沢城公園の新しい入口が2020年に復元されました。尾山神社の境内を通り抜け、整備された鼠多門橋を渡り、鼠多門を通ると城内です。このルートを使えば玉泉院丸庭園として二の丸・本丸へと城の中心に一気にアクセスできます。三の丸広場に出れば石川門へ、そして兼六園・国立工芸館へと散策できます。いっぽう、尾山神社から反対方向に歩けば、城下に広がる武家屋敷跡へと真っすぐな道が続きます。金沢中央観光案内所の前を西に真っすぐいけば外惣構の用水路、さらに進み大野庄用水にぶつかり、この用水沿いに南下すれば、足軽屋敷が2棟並んだ金沢市足軽資料館、その裏手に聖霊病院聖堂(昭和初期の和洋折衷の教会建築)の尖塔も見えます。さらに南下す

ると、中級武士が住んでいた長町武家屋敷跡の町並み、城下の豪商中屋(薬種商)の建物を移築した金沢市老舗記念館、前田土佐守家資料館とつづき、城下町に大きな面積を占めていた武家地の雰囲気を楽しめます。

文/石川県金沢城調査研究所前所長 木越隆三



鼠多門・鼠多門橋 MAP▶②金沢市街 B-2
海鼠壁の目地が黒漆喰で仕上げられ、他の門には見られない特徴の鼠多門。鼠多門橋は金沢城公園(玉泉院丸庭園)と尾山神社をつなぐ
●鼠多門/9:00~16:30 ●年中無休 ●無料

「玉泉院丸庭園」で異色の石垣を楽しむ



3代利常が作庭した「玉泉院丸庭園」。池泉に辰巳用水を引き込み、高低差を生かし周囲の石垣までも庭の一部に取り込んだ異色の庭です。その後5代綱紀、13代斉泰などが庭作りを続けたものの明治初期に廃絶。2015年に再現された。周辺に見て楽しめる洒落た石垣が多いユニークな大名庭園です。色紙短冊積石垣は、5代綱紀時代の庭作りをしるべき異色の庭園石垣となっています。

● 加賀百万石の歴史を1日ゆっくり堪能

金沢駅 徒歩10分 → 前田土佐守家資料館 徒歩5分 → 金沢市老舗記念館から長町武家屋敷跡界隈、金沢市足軽資料館へ
徒歩10分 → 尾山神社(鼠多門橋・鼠多門利用) 徒歩5分 → 金沢城公園、兼六園(園内散策) → 成興閣 → 石川県立歴史博物館
徒歩5分 → 国立工芸館、石川県立美術館へ 徒歩20分 → 金沢駅(もしくは金沢泊)

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ



※所要時間はおおよそのものです。

加賀藩の歴史と文化の探訪! ~加賀百万石回遊ルートをめぐる~



● 成興閣
加賀藩13代藩主前田斉泰が母である12代奥方貞龍院のために建造。加賀藩主・前田家にゆかりのある建物と庭園、美術工芸品など、すべてが当時を知ることができる唯一のもの
金沢市兼六町1-2 ☎076-221-0580
●9:00~17:00 ●水曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 ●一般・大学生700円、中高生300円、小学生250円(企画展)※特別展は別途料金



● 石川県立美術館
加賀藩前田家ゆかりの古美術品のほか、石川県ゆかりの作家を中心に幅広く収蔵・展示。数々の名品の中でも国宝「色絵雑香炉」は必見
金沢市出羽町2-1 ☎076-231-7580
●9:30~18:00 ●年末年始、展示替え期間
●一般370円、大学生290円、高校生以下無料

詳しくは 加賀百万石回遊ルート 検索



● 石川県立歴史博物館
国指定重要文化財「旧金澤陸軍兵器支廠」のレンガ建物を活用。石川の歴史と文化を紹介
金沢市出羽町3-1 ☎076-262-3236
●9:00~17:00 ●年末年始、展示替え期間
●一般300円、大学生240円、高校生以下無料



● 国立工芸館
日本で唯一の工芸・デザイン作品を専門とする国立美術館として、多彩で魅力的な展覧会を開催
金沢市出羽町3-2 ☎050-5541-8600(ハローダイヤル)
●9:30~17:30
●月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始、展示替え期間
●展覧会によって異なる



● 金沢市足軽資料館
藩政時代の貴重な足軽屋敷2棟を移築再現し、足軽の職務や日常生活の様子を展示、解説
金沢市長町1-9-3 ☎076-263-3640
●9:30~17:00 ●年中無休 ●無料

● 前田土佐守家資料館
初代前田利家の次男前田利政を家祖とする前田土佐守家所蔵の資料、約9,000点(石川県指定文化財)を保管、その一部を展示
金沢市片町2-10-17 ☎076-233-1561
●9:30~17:00 ●月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始、展示替え期間 ●一般310円、65歳以上210円、高校生以下無料

物資と文化を運んだ 北前船の足跡



大いなる繁栄をもたらした 海と陸の物流

航海の安全を祈願した船絵馬(北前船の里資料館蔵)

古代から近代にかけ、県内各地に大いなる繁栄をもたらした物流の変遷を、名所・旧跡からたどります。石川県では、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に、加賀市、輪島市、小松市に続き、金沢市、白山市、志賀町が認定されており、当時の北前船の壮大な世界を今に伝えています。

※本文は「物資と文化を運んだ北前船の足跡」をテーマに2023年12月以前に執筆されたもので、2024年「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

古来より大陸との交流のあった地

石川県は、日本列島のほぼ真中にあり、古くから交通・交流の要所として発展してきました。古代には、大陸からの使いが福浦湊をめざして渡来。羽咋の氣多大社も、客人をもてなす儀礼や祭祀の空間に通じるとの説もあります。

近世、加賀藩の時代に至ると、半島沿岸の良港は北前船の港として賑わいます。遠く蝦夷地から瀬戸内・畿内の品々と文化が、この地にもたらさ

れました。その名残りは、例えば、総持寺祖院の玄関、黒島(門前町)の伝統的な町並みや豪壮な天領祭りの山車をはじめ、輪島や七尾(所口)など、能登の各地に見ることができでしょう。

海路と陸路による恩徳

もちろん北前船といえば、加賀の橋立や塩屋・瀬越、小松の安宅、手取川河口の美川に残る船主屋敷と贅を尽くした調度品にも、その栄華をしのぶことができます。安宅住吉神社に

は、今でも多くの船絵馬が保存されています。

一方、陸路に関していえば、古代の北陸道にはじまり、近世、大名行列が往来した北国街道も、沿道に豊かな経済・文化の恩徳をもたらしました。野々市・松任・寺井・津幡などの街道の街並みが、時代を超えて私たちを宿駅、宿場に運んでくれます。

鉄道による交通革命

しかし、その画期となったのは、何といても明治30年代の北陸線の開通といえるでしょう。この交通革命は北前船の衰退をもたらし、鉄道による物資の輸送を支え、何より鉄道の旅が庶民に広がることにより、名所旧跡をめぐる文化が定着してきます。

加賀温泉郷を結ぶ温泉電軌、白山麓、白山比



石川県銭屋五兵衛記念館 MAP▶①B-3
●金沢市金石本町口55 ☎076-267-7744
●9:00~17:00(入館は16:30まで) ●12月~4月:火曜(祝日の場合は翌日)、5月~11月:無休、年末年始 ●一般500円、小中高生350円※「銭五の館」への入館料含む。
北前船で財をなした豪商、銭屋五兵衛に関する資料を展示。北前船実物大1/4の模型で航海の疑似体験もできる

咩神社への金名線、金沢から郊外へ行き交う松金線、浅野川・金石電鉄など、行楽地や遊園地をめざす電鉄網は人々の移動を盛んにしました。

このように、石川県には県域の各地に歴史的な背景に裏打ちされた観光スポットが散在し、これらの賑わいを時代時代の交通交流網が豊かに支えていたのです。 文/金沢星稷大学教授 本康宏史



呉竹文庫 MAP▶①A-3
●白山市湊町ヨ146 ☎076-278-6252
●9:00~17:00 ●月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 ●一般310円(中学生以下無料)
旧北前船主、熊田源太郎が大正時代に設立した私設図書館をもとに、熊田氏自らの蔵書であった13,000冊余りの図書のほか、美術品、古文書などを企画展として定期的に展示している施設



安宅住吉神社 MAP▶①A-4
●小松市安宅町タ17 ☎0761-22-8896
●8:30~17:00(開門時間)
陸と海路の要所として古くより栄えた安宅の地にあり、北陸道往来の人々が必ず詣でた古社。道先案内の神、開運厄除など多くの信仰を受け、全国唯一の難関突破の守護神として、祈願やお守りを受けに全国から参拝者が訪れる



北前船の里資料館 MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市橋立町イ乙1-1 ☎0761-75-1250
●9:00~17:00 ●年中無休 ●一般350円、75歳以上170円、高校生以下・障がいのある方無料
重要伝統的建造物群保存地区に選定されている加賀市橋立地区の北前船主の邸を利用した、「北前船」に関する資料を展示する資料館

※「令和6年能登半島地震」の影響により、2024年2月現在休館中につき、最新の情報はWEBサイトをご確認ください。

●金沢から加賀へ、海と陸の交流をめぐる

1日目	金沢駅(午後発) <small>バス18分</small> = 金石バスターミナル <small>8分</small> = 大野・金石町並み散策 <small>10分</small> = 石川県銭屋五兵衛記念館 <small>5分</small>
2日目	あわづ温泉(発) <small>車20分</small> = 安宅住吉神社 <small>車20分</small> = 北前船の里資料館 <small>徒歩2分</small> = 加賀橋立地区町並み散策 <small>車12分</small> = 加賀温泉駅もしくは小松空港



※車の所要時間はおおよそのものです。🚲はレンタサイクル「まちのり」利用。

古代より受け継がれる 小松の石文化

もっと 8



太古から続く小松の石を見て知る場所へ

西山橋

石造のアーチ橋で重厚な雰囲気醸し出している ●小松市滝ヶ原町 MAP▶⑤加賀周辺

2016年、文化庁が認定する「日本遺産」に選ばれた、小松の石文化。正式な名称は「『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～」といい、約2300年前から連続と続く歴史が今も息づいています。

■ アーチ石橋などが残る滝ヶ原

小松は古くから続く石の名産地で、その歴史は弥生時代に碧玉^{※1}の管玉^{※2}の生産が盛んであったことが、発掘調査で判明しています。その後も良質の石の産地として地場を中心に活用されたほか、今もしっかりと根付く伝統工芸・丸谷焼や、生

活の一部となっている橋や塀垣、蔵の土台や壁などに石が活用されるなど、重要な役割を果たしてきました。

そんな石文化の歴史を垣間見ることができるのが、小松市の里山にある「滝ヶ原」エリアです。その地名がついた「滝ヶ原石」の産地で、すでに閉鎖された石切り場や、地元の石材を使ってできたアーチ型石橋群など、石にかかわるさまざまな見

西山石切り場跡

すぐ近くの細道のほか、自動車が行き交える道路からもその姿を望める

●小松市滝ヶ原町 MAP▶⑤加賀周辺

どころがあります。

名所は滝ヶ原地区に点在しているため、観光ガイドなどを行う「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を拠点に回るのがおすすめ。里山自然学校すぐそばにある「西山橋」(左ページ写真)が最初の見どころです。アーチ型で、現在も生活道路として使われる“現役”の石橋。半世紀以上前に築造され、重厚な造りで周囲を植物が囲むさまは、まるで外国映画のワンシーンのようです。

さらにおすすめなのが、西山石切り場跡(右上写真)です。江戸時代から採掘されたものの、昭和中期に崩落したためすでに閉鎖された場所で、中には入れませんが山の斜面にぽっかり穴が空き、まるで山の中に神殿があるような姿が望めます。そのほかにも大小さまざまな石橋などがあり、滝ヶ原に根付く石の文化を見ることができます。

※1碧玉…鉱物の一種で、緑色の石

※2管玉…管状の装身具の部品で、腕飾りや首飾りに使われます

那谷寺 MAP▶⑤加賀周辺

●小松市那谷町ユ122 ☎0761-65-2111

🕒9:15～16:00 📺無休 🎫中学生以上1,000円、小学生300円、幼児以下無料



■ 那谷寺や丸谷焼も石があつてこそ

小松の石は古代から時代を経ても重宝され、1300年の歴史を持つという名刹・那谷寺(左下写真)は、石山の地に創建されました。そそり立つ岩が目をはひく「奇岩遊仙境」が代表するように、「石」が寺の成り立ちに大きな役割を果たしました。そして江戸時代には城郭の石垣などに活用されたほか、大正期から採掘が始まった「観音下石」は、独特な風合いなどが高く評価され、国会議事堂や旧甲子園ホテルに使われるなど、その名声は県外にも轟きました。

さらに石川を代表する伝統工芸・丸谷焼も、小松の石があつてのもの。江戸後期、小松で採掘された花坂陶石が丸谷焼の原料として活用できることが分かり、生産の安定化が図られました。丸谷焼が現在の名声を確立するには、小松の石が欠かせなかったと言えます。

小松では日本遺産認定を受け、石文化について学べるさまざまなスポットの整備を進めています。

小松の石の見どころは次ページへ!

石文化を体感できるスポットへ

小松には、石にまつわる多彩なスポットがあり、これらをめぐればその文化の奥深さが体感できます。

たきがはら

滝ヶ原

今も採掘が続く石切り場

明治後期から建造されたアーチ型の石橋が5つ現存しており、「滝ヶ原石」の産地でもあります。里山自然学校のツアーでは、通常は見学できない本山石切丁場の内部に入ることも可。また、校内には貴重な石工道具を展示・保存しています。



里山自然学校こまつ滝ヶ原
MAP▶⑥加賀周辺
●小松市滝ヶ原町ウ20
●9:00～23:00(要予約)
●ツアー体験は500円
●連絡先:滝ヶ原観光ネットワーク
(要予約090-5680-1548)

おごや

尾小屋鉱山資料館

かつての坑道跡で往時を体感

閉山した尾小屋鉱山跡地に資料館があり、採掘で使用していた道具、資料などを展示。坑道跡は「メインロード」として整備され、ジオラマなどで採掘当時の雰囲気を再現しています。



MAP▶①B-4
●小松市尾小屋町カ1-1
●0761-67-1122
●9:00～17:00
(入館～16:30)
●水曜(祝日を除く)、祝日の翌日、冬期(12月1日～3月24日)
●一般500円、高校生以下無料

小松市埋蔵文化財センター

石文化の成り立ちを知る

小松の遺跡から出土した重要文化財指定品など貴重な資料の数々を紹介する企画展示のほか、出土品整理体験や古代のものづくり体験もあります。



MAP▶①B-4
●小松市原町ト77-8
●0761-47-5713
●9:00～17:00(入館～16:30)
●体験内容についてはお問い合わせください。
●水曜(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始
●無料

にしきがま

小松市立錦窯展示館

人間国宝の作品を展示

初代から三代の徳田八十吉が九谷焼上絵付にいそしんだ陶房跡で、1933(昭和8)年に建てられた町家を改修した展示館。歴代八十吉の作品のほか、2基の錦窯と上絵付の道具も見ることができます。



MAP▶①A-4
●小松市大字町95-1
●0761-23-2668
●9:00～17:00
(入館～16:30)
●水曜(祝日を除く)、祝日の翌日
●展示替え期間、年末年始
●一般300円、高校生以下無料

コマツナイン

Komatsu 九ギャラリー

石文化の源流を知る

小松駅内にあり、こまつものづくりと交流の源流「八日市地方遺跡」の出土品から日本遺産「こまつ石文化」を紹介。大型モニターで小松市の様々な情報を発信しています。



MAP▶①A-4
●小松市土居原町13-18
●0761-58-1212
●7:00～22:00
●無休
●無料

九谷セラミック・ラボラトリー

陶土づくり見学から、作品鑑賞、体験まで

施設内には製土工場が設けられ、全国でも希少な陶石からの土作りが見学できます。またろくろを使った器づくりや絵付け体験もできます。 ※体験情報詳細は直接お問い合わせください。



MAP▶①A-4
●小松市若杉町ア91
●0761-48-4235
●10:00～17:00(入館～16:30)
●4月～11月/水曜(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始※12～3月は火・水曜日
●一般300円、高校生以下150円

●小松の石文化を見て知る旅へ

1日目	小松空港(午前発) = 車30分 = 滝ヶ原エリア = 車10分 = 那谷寺 = 車10分 = あわづ温泉(泊)
2日目	あわづ温泉(発) = 車20分 = 小松市埋蔵文化財センターもしくは尾小屋鉱山資料館 = 車15分 = 九谷セラミック・ラボラトリー = 車10分 = Komatsu 九 ギャラリー = 車5分 = 小松市立錦窯展示館 = 車10分 = 小松空港

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ



※車の所要時間はおおよそのものです。

祭りの聖地を訪ねて



あばれ祭 能登町宇出津地区 / 毎年7月第1金曜日・土曜日
能登のキリコ祭りの先陣をきって行われる勇壮な祭り



石崎奉燈祭 七尾市石崎町 / 毎年8月第1土曜日
重さ約2トンのキリコを約100人の男衆で担ぎ上げる漁師町らしい勇壮な祭り

日本人は、自然に感謝し、生きることを喜び、地域の絆を強くするために、生活に密着した祭りを継承してきました。全国各地に存在する祭りの中で、日本の原風景を有する能登半島の各地域が熱気と興奮に包まれる能登の「キリコ祭り」は、唯一無二の魅力を放ちます。

※本文および祭りの写真と紹介記事は、2023年12月以前に作成されたもので、2024年「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

■ 里山里海に伝わる祭りの文化

夜、キリコに灯がともし、浮かび上がった大書の墨字や武者絵が幻想的な光景を醸し出す。笛や太鼓のはやしに合わせて、夜空に威勢のいい掛け声がこだまする。キリコを担ぎあげた法被姿の氏子衆が、熱気に包まれたまちを練り歩き、能登の海を乱舞する。

キリコ祭りは、7月から10月にかけて能登半島の約200地区で行われる祭礼です。この時期に

能登を旅すれば、必ずどこかでキリコ祭りに出会えるといっても過言ではありません。

「キリコ」は「切子灯籠」の略称で、神様の乗る神輿のお供をして道中を照らします。こうしたことから、「ホートー」(奉燈)、「オアカシ」(御明かし)と呼ぶ地域もあります。キリコの形状は、担ぎ棒のついた直方体が基本で、四面に張られた白い和紙に文字や紋、絵が描かれ、明かりが灯されるとそれらが幻想的に浮かび上がります。

キリコ祭りは祇園信仰や、夏越しの神事に由来し、それぞれ能登の地で独自の発展を遂げ



輪島大祭
輪島市海士町・河井町・鳳至町・輪島崎町 / 毎年8月22~25日
神様に涼をおとりいただく「おすずみ祭り」で、総漆塗りの豪華なキリコが巡行



西海祭り
志賀町西海地区 / 毎年8月14日
華やかに、勇ましく、女性が活躍する祭り



寺家キリコ祭り
珠州市三崎町寺家地区 / 毎年9月第2土曜日
高さ14~16mを超える総漆塗りで金箔を施した4基の大キリコはまさに圧巻



沖波大漁祭り
穴水町沖波 / 毎年8月14・15日
海の中で乱舞するキリコ祭りの代表格。日中に最高潮を迎える点の特徴



能登島向田の火祭
七尾市能登島向田町 / 毎年7月最終土曜日
高さ約30mの松明の大きさから「日本三大火祭り」のひとつといわれる



宝立七夕キリコまつり
珠州市宝立町鶴飼 / 毎年8月第1土曜日
海に入ったキリコが松明のまわりを周回する海中乱舞が見どころ

ました。江戸時代の文書にはすでにキリコの記録が残っており、当初は笹竹の先に小さな行灯を吊るした簡素なものだったようですが、文化・文政期には現在のようなキリコが出現し、19世紀後半には地域の豪商たちが豪華さや大きさを競うようになりました。

■ **優美に、豪華に、勇壮に—**
■ **個性を競い合うキリコ**

キリコ祭りと総称されながらも、祭りの趣向やキリコの姿かたちは多種多様です。数多くのキリコが大松明の周りを暴れまわる能登町の「あばれ祭り」、沖の松明を目指してキリコが海上を乱舞する珠州市の「宝立七夕キリコまつり」、4日間にわたって繰り広げられる



名舟大祭
輪島市名舟町 / 毎年7月31日・8月1日
奇妙な面を付けて太鼓を打ち鳴らす御陣乗太鼓が知られる



恋路火祭り
能登町恋路地区 / 毎年7月「海の日」の前日
恋伝説の舞台上にふさわしい幻想的な松明と勇壮なキリコが登場

水と炎の神事「輪島大祭」、高さ15メートルのキリコ6基が町内を豪快に巡行する七尾市の「石崎奉燈祭」など、各地で個性豊かなキリコ祭りが行われています。どれが一番ということはありません。それぞれが他の地区にはない個性を競い、どこも一番を自負しているのです。

ひとつの地域でこれだけ多くの同一の形態をもった祭りが存在するのは、国内を見渡しても能登半島が唯一。その灯は半島全体を照らし出し、日本の原風景ともいえる能登の暮らしに光と

影、静と動、緩と急、ハレとケのコントラストを生み出します。

■ **キリコ祭りを体感することは**
■ **日本人の精神性を知ること**

能登には「ヨバレ」という、祭りに育まれたもてなしの風習があります。キリコ祭りの当日、地域の家々は玄関の戸を開け放ち、能登を離れた家族を迎え、親類や友人を招いてごちそうをふるまいます。「能登はやさしや土までも」という、この土地の人々の温かさやおおらかさを表す言葉がありますが、こうした人々の心の持ちようは、祭礼に対する熱心さにも表れています。

キリコ祭りは能登に暮らす人々の心のよりどころであり、生活の節目であり、エネルギーを爆発させる場でもあります。祭りの熱気の中に身を置き、地域の人々とふれあうことは、日本人が大切にしてきたものを理解することにつながります。

《ユネスコ無形文化遺産》
せい はく さい
青柏祭の曳山行事

七尾市の大地主神社の春祭りである「青柏祭」は、能登で最も盛大な祭りのひとつで、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。祭りの主役はキリコではなく、その名も「でか山」という日本一の大きさの曳山です。高さ約12メートル、車輪の直径約2メートル、重さ約20トンのでか山3基が、中心市街地の軒をかすめるように進み、「辻廻し」の見せ場で地響きを立てて90°方向転換すると、見物客から大きな歓声が上がります。



「灯り舞う半島 能登」で
神々に巡りあう旅、
ふたたび

#能登のために

能登の人々の生活に溶け込んでいる伝統行事「キリコ祭り」。「キリコ祭り」と総称されていますが、市町ごと、地区ごとに祭りの内容は多種多様。漆や彫刻など意匠を凝らしたキリコの形状、祭礼の行程などそれぞれに卓越した特徴があります。これほどまでに灯籠神事が集積した地域は全国的にも珍しく、2015(平成27)年には日本遺産に認定されました。

令和6年能登半島地震により、祭りの存続が各地で危ぶまれているなか、祭りを過去のものにしないために取り組み始めた人々の姿もあります。こちらのサイトで、壮大なキリコ祭りへ思いをさせてみてください。(2024年2月末)



「キリコ祭り」の情報はこちら

もっと10 世界農業遺産の島にステイする



ゆったりと流れる島の時間、人々のやさしさ。2泊3日以上滞在で体感できる大自然の魅力

船上から間近で野生のイルカをウォッチング(左)、スノーケリングでイルカと一緒に泳ぐ体験(右)

日本で最初に世界農業遺産に認定された能登半島。その中央に浮かぶ能登島では、能登の里山里海を凝縮したかのような自然と暮らしがあり、それらをじっくりと体験できるメニューが豊富にそろっています。

※本文および掲載写真は、2023年12月以前に作成・撮影されたもので、2024年「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

- 夏は穏やかな日本海で、
- 野生のイルカと一緒に泳ぐ

能登島で自然の良さを実感するなら体験メニューに参加するのが一番です。この島ならではの魅力あるものがたくさん用意されており、ここでは連泊していろいろチャレンジするプランを紹介しましょう。

注目のメニューは、野生のイルカに関するもの。島は世界最北端のミナミハンドウイルカの生息

地でもあり、2023年2月現在10頭以上が生息しています。このイルカたちを船で見に行ったり、スノーケリングと一緒に泳いだりすることができます。

能登島は魚影が濃く、海釣りの聖地としても知られています。手ぶらで釣りができるものや、釣った魚を宿でさばいて干物を作るメニューもあります。そして、夜は海ほたる観察へ。満天の星空の下、波間に光る無数の海ほたるは、人工的なイルミネーションにはない、息をのむ神秘的な美しさがあります。



能登島と和倉を結ぶ能登島大橋



捌いた魚は、干物にしてお土産に



そわじ浦の幻想的な海ほたる

- プチ移住気分
- 自然に囲まれた島の暮らしを楽しむ

さらに、磯に棲むさまざまな生きものを観察する「磯体験」、里山里海の景観を楽しみながら学習ができる「塩づくり体験」、ちょっと早起きして漁港に出かける「水揚げ見学」など、能登島の自然と暮らしもぜひ体験してください。

「能登島観光の魅力は、自然豊かな風景、人のもてなし、そしてうまい魚です」とは、能登島観光協会会長の言葉。イルカと一緒に泳いだり、海ほたるを観察したりするなら夏がおすすめですが、秋の祭りや冬の魚料理など四季折々に滞在する楽しみがあります。

能登島観光協会(道の駅のとじま内) MAP▶①C-2
[令和6年能登半島地震]により、2024年2月現在の体験受付は休止中。再開の目途がたち次第、ホームページ等にて案内予定
七尾市能登島向田町122-14 ☎0767-84-1113
🕒9:00~17:00 📅土日祝・12~3月の毎週木曜日

さらにもっと!

石川県森林公園で心を癒やす森林セラピー

「森林セラピー」という言葉をご存知でしょうか? 森林セラピーとは、科学的な証拠に裏づけられた森林浴をいい、森林環境を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防をめざすものです。石川県森林公園は平成25年3月に森林セラピー基地として石川県で初めて認定されました。

園内には、歩きやすく景観に優れた5本のセラピーロードが設置されており、森林散歩と健康維持・増進を目指すプログラムが体験できます。滞在したいという人には、道の駅「俱利伽羅源平の郷」竹橋口にある宿泊施設「俱利伽羅塾」の利用がおすすめです。 ※秋の祭りや冬の魚料理など四季折々に滞在する楽しみがあります。



● 森林セラピーのお問い合わせ
石川県森林公園インフォメーションセンター MAP▶①B-3
☎076-288-6449 https://www.town.tsubata.ishikawa.jp/therapy/
河北郡津幡町字津幡西-14
● 俱利伽羅塾 MAP▶①B-3
河北郡津幡町字竹橋西270 ☎076-288-8668



イルカウォッチング&島あそび再開に願いを込めて

能登島がある七尾湾には、2001年頃から、2頭の野生のミナミハンドウイルカが棲むようになり、その後家族が増え、2023年には十数頭が生息するようになりました。能登島では、島の人も観光で訪れる人も、皆が環境への配慮と自主的なルールを守りながら、希少な野生イルカ生息地として見守ってきました。

「令和6年能登半島地震」により、能登島での自然

体験等の開催および受付は、2024年2月末現在休止中ですが、一部では、イルカウォッチングの受付をはじめたところもあります。今後の復旧・復興とともに、観光受け入れの再開が待ち望まれます。(2024年2月末)

能登島観光協会のサイトはこちらから➡



もっと① 白山に登る



白山で霊山の情趣にふれ、自然を体感する

ゆったりと横たわる白山主峰の御前峰をバックに随所でクロユリの群生が見られる(室堂平)

白山は千三百年にも及ぶ信仰の歴史を有し、花の名山としても著名な山。クロユリやハクサンコザクラが咲き競う夏、白山比咩神のご神徳を戴き、霊峰の自然を体感しよう!

■ 千三百年にも及ぶ ■ 信仰の歴史を有する山

白山が富士山、立山とともに「日本三霊山」と称されるようになったのは、日本に数多ある信仰の山のなかで、とくに霊験あらたかな山(今風にいえばパワースポット)として広く知られていたからでしょう。江戸時代には、これら霊山の「三山巡り」も流行したとか。白山はまた、花の名山として知られ、ハクサンを冠する高山植物が約20種もあります。江戸時代の紀州藩士で本草学者の畔田伴存(1792-1859)が珍しい植

物で知られた白山に登り、『白山草木志』などを著したことなどがその要因ですが、群生するクロユリやハクサンコザクラの見事さは、わが国有数といえるでしょう。

このような白山の歴史と自然は、国際的にも高く評価され、自然と人との共生を図るユネスコエコパーク(生物圏保存地域)に登録されています。また、2023年5月には、価値ある地質遺産保護と活用を目的としたユネスコの世界ジオパークに「白山手取川ジオパーク」が認定されました。そのエリアは白山市全域、テーマは「山-川-海そして雪 いのちを育む水の旅」です。



大汝峰(2,684m)から望む白山山頂部。右:御前峰(2,702m)、左:剣ヶ峰(2,677m)と7つの火口湖のうち最大の翠ヶ池



雲海の彼方、北アルプスからのご来光。晴れた朝には太鼓を合図に御前峰に登る

室堂ビジターセンターと御前峰。室堂は定員700名を越す大きな山小屋だ。公衆トイレの水洗化で快適さも増した



ハクサンイチゲ



ハクサンコザクラ

そんなジオパークの中でも重要な白山の最たるジオサイト※は、やはり山頂一帯の火山地形でしょう。砂防新道を登って室堂に1泊し、お池巡りをするのがおすすめです。

写真と文/白山自然保護センター元所長 梶典雅

※ジオサイト…ジオパークの大地の成り立ちがわかる見どころ

金沢駅・松任駅発着登山バス利用で便利!

7月から10月の白山登山シーズンには、JR金沢駅とIRいしかわ鉄道松任駅を発着点とする登山バス(市ノ瀬ビジターセンター行き)が運行の予定です。

○お問い合わせ

■金沢駅発着/北陸鉄道テレホンサービスセンター ☎076-237-5115

■松任駅発着/株式会社マップ ☎076-249-7300



最短の砂防新道は別当出合から室堂まで6km、約4時間。随所に水場とトイレがある。下山は花と展望が魅力の観光新道が人気だが、やや健脚向き。なお、白山では登山届の提出が義務付けられており、市ノ瀬や別当出合、WEBでも提出できる。

●予約・問い合わせ/白山観光協会 ☎076-273-1001
白山広域は MAP▶①B-4

白山手取川ユネスコ世界ジオパーク

白山手取川ジオパークのエリアや見どころ&モデルコースなど情報盛りだくさん!

●お問い合わせ
白山手取川ジオパーク推進協議会
☎076-274-9564



詳細はこちらから



白山での自然観察会

7月下旬から約1カ月、石川県自然解説員研究会による自然観察会が室堂と南ヶ馬場で毎日、土・日は、別当出合～室堂もしくは南ヶ馬場間の登山・下山ガイドを行っています(参加無料・申し込み不要)。詳しくは、下記へ。

●お問い合わせ
石川県自然解説員研究会
https://kaisetuin.jimdofree.com
☎090-7083-5687

美しい瞬間を求めて、 石川へ通いつめる



日本海から高山帯まであり、四季の変化がはっきりしている石川県は、風景写真を楽しむ人々に人気のエリアです。ここではとっておきの絶景写真でその魅力をお伝えします。

※本文は「絶景に出会う」をテーマに2023年12月以前に執筆ならびに写真掲載されたものです。2024年「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご承知ください。

奥能登の絶景

白米千枚田で10月中旬から3月中旬にかけて開催されるイルミネーションイベント「あぜのきらめき」は、棚田のあぜに設置されたソーラーLEDがきらめき、写真映える情景を提供してくれます。

明るいうちから準備を整えて、完全に暗くなら

ないうちに海や空の表情も一緒に表現するのがポイントです。

晴れた日はもちろんのこと、荒れた天気は日本海の白波が力強く写ることから、むしろ好条件といえます。雪の降る日は白くお化粧されたあぜにイルミネーションが灯ります。海風で雪はすぐには消えるので、雪が降っているときにチャンスです。白米千枚田はいろいろな条件で訪れてほしいところです。



白米千枚田 あぜのきらめき
LEDライトは約15分ごとにピンクやゴールドに色が変化する。日没から4時間点灯
●輪島市白米町 MAP▶①C-1

見附島から立ち上る天の川と月
特異な姿が印象的な見附島は、昼間だけでなくデジタルカメラの高感度特性を生かして星空とともにとらえたいところ
●珠洲市宝立町鶴飼 MAP▶①C-1

※「白米千枚田」や「見附島」ほか、2024年2月末現在、掲載のような風景に出会うことはできませんが、忘れたくない能登の美しい風景としてご覧になっていただけましたら幸いです。



機具岩(はたごいわ)
一年中、夕日と一緒に狙える
●羽咋郡志賀町七海 MAP▶①B-2

冬の日本海と波の花
白米千枚田に近い曾々木海岸で撮影
●輪島市町野町 MAP▶①C-1

白米千枚田の朝
稲刈り前の情景。いろいろな季節に訪れたい
●輪島市白米町 MAP▶①C-1



姥ヶ滝
日本の滝百選に選出されている白山白川郷ホワイトロードを代表する滝。雨の直後、増水した滝と最高の紅葉の瞬間をとらえた
●白山市中宮 MAP▶①B-4

■ 地形の変化に富む加賀の絶景

白山白川郷ホワイトロードは標高差800m以上を誇り、10月中旬から冬季閉鎖になる11月初旬まで、どこかで紅葉が楽しめます。紅葉の初期は、タイミングが合えば冠雪した白山と紅葉の絶景が撮影できます。紅葉は次第に下降して蛇谷

峡谷の滝群で見頃になるのは10月下旬頃です。白山の展望を撮るならば晴天が条件になりますが、滝を撮るなら光が柔らかい曇りの方が撮りやすいでしょう。そして本当は雨天が秀作をものにするチャンスです。岩盤が発達した蛇谷峡谷は一気に増水しますが、雨が止めば水が引くのも早いのです。



那谷寺 ●小松市那谷町 MAP▶⑤加賀周辺
白山ゆかりの那谷寺は石川を代表する紅葉スポット
桜と月の軌跡 ●小松市木場湯 MAP▶⑥加賀周辺
木場湯を周遊する園路沿いに約1,700本の桜並木がある
不老橋からの手取峡谷 ●白山市吉野 MAP▶①B-4
大きな瓢穴(おうけつ)を見ることができる



兼六園・冬のライトアップ
11月～3月頃まで“雪吊り”が見られる
●金沢市兼六町 MAP▶②金沢市街 B-1

■ 新旧が織りなす金沢の絶景

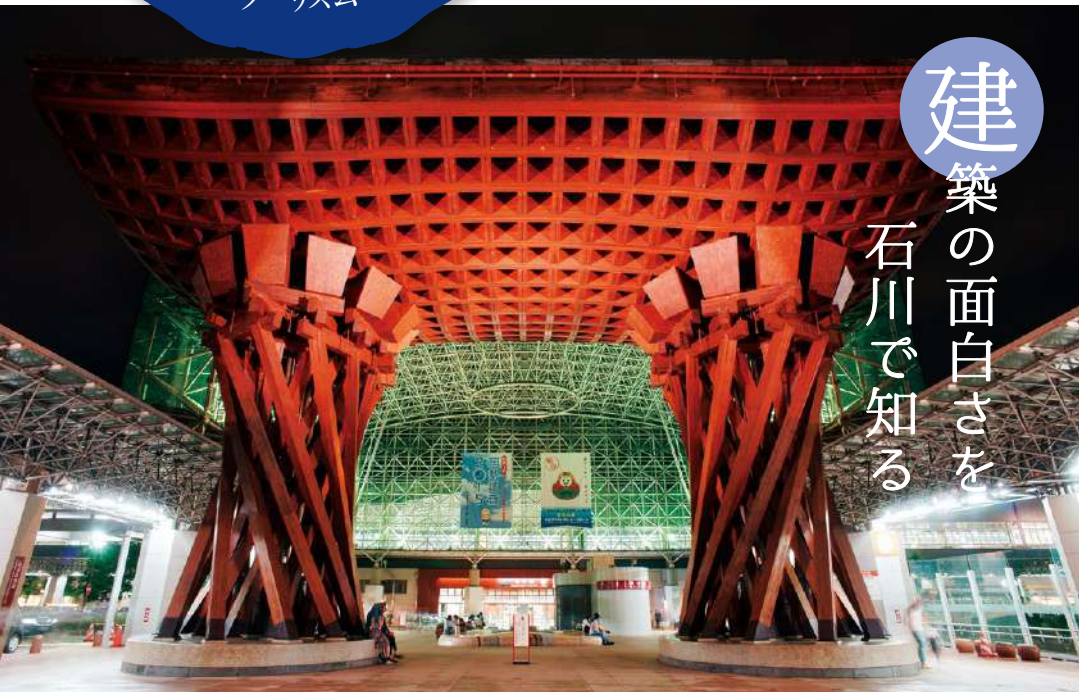
日本三名園の一つである兼六園は季節ごとに期間限定でライトアップされます。冬のライトアップは例年雪が多い2月頃に開催され、タイミングがあうと雪景色の中に雪吊りが幻想的に浮かび上がるでしょう。

桜の時期には春のライトアップ、緑深まる初夏、紅葉の秋と、それぞれが優れた被写体となります。ライトアップの開園からしばらくの間は混雑しますが、多少時間を遅らせると一般の観光客は少なくなるので、落ち着いて撮影できるでしょう。

写真と文／木村芳文



卯辰山公園四百年の森 ●金沢市瑞穂町 MAP▶①B-3
春は満開の桜の花の森が広がる
石川県庁からの夜景 ●金沢市鞍月 MAP▶①B-3
最上階に展望台があり、19時または20時まで無料開放
夜桜と石川門 ●金沢市丸の内 MAP▶②金沢市街 B-1
春ならではのワンシーン



建築の面白さを
石川で知る

金沢駅(鼓門・もてなしドーム) ●金沢市木ノ新保町 MAP▶②金沢市街 A-2

時代を超えて、偉大な建築家たちが競いあう建築美。石川の美しい風景と建物を訪ねる旅をお楽しみください。

江戸時代の天才建築家
山上善右衛門の作品に迫る建築の旅

歴史建築と現代建築をシームレスに堪能できる石川のアーキテクチャ・ツーリズム。共通するのは、偉大な建築家たちが石川の風景的な美しさを取り込み、建築作品として表現していることであり、そこに石川の名建築を愉しむヒントがあります。

石川の歴史建築を代表する建築家が山上善右衛門です。たとえば妙成寺は、台地が持つ斜面を生かして一直線に総門・楼門・五重塔が配さ

れています。訪れた者は石段を辿りながら五重塔まで、天に向かって歩いていく、そんな感覚にさせられる建物です。

そして、景観美を徹底的に生かし尽くした那谷寺、海から入らずの森へと至る繋がり意識させる氣多大社。山上善右衛門建築は、建築好きの好奇心をどこまでもかき立てます。



妙成寺 ●羽咋市滝谷町 MAP▶①B-2



石川県立図書館 ●金沢市小立野 MAP▶①B-3
本のページをめくる様を表現したような外観の建物で、中心部には円形劇場を思わせる段状の大閲覧空間が広がる。コンセプトは「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」。

現代建築の巨匠たちが競演する
アーキテクチャ・ツーリズム

一方の現代建築では、谷口吉郎氏がいしかわ生活工芸ミュージアムをはじめとする気品漂うシンプルモダンな建築作品を数多く遺し、金沢城と兼六園が創りだす城下町との調和を求めました。金沢21世紀美術館、金沢駅(鼓門・もてなしドーム)、金沢海みらい図書館、そして鈴木大拙館がその感性を引き継ぐように、景観と見事に溶け込みながらも強い印象を与えるのが今の金沢です。そして、2019年には「谷口吉郎・吉生記念金沢建築館」が開館。2022年には石川県立図書館が移転開館。さらにかほく市の石川県西田幾多郎記念哲学館も忘れてはいけません。

加賀と能登では、さらに風景の魅力と一体化した建築が愉しめます。片山津にある中谷宇吉郎 雪の科学館と加賀片山津温泉総湯は柴山湯



鈴木大拙館
提供:鈴木大拙館
●金沢市本多町 MAP▶②金沢市街 C-1



谷口吉郎・吉生記念金沢建築館
写真:北嶋俊治
●金沢市寺町 MAP▶②金沢市街 C-2



金沢21世紀美術館
●金沢市広坂 MAP▶②金沢市街 B-2



石川県西田幾多郎記念哲学館
●かほく市内日角 MAP▶①B-3

と白山を借景として上手く取り込んでいます。能登では石川県七尾美術館がその土地をコンセプトチャルに体现し、石川県能登島ガラス美術館は海に囲まれた小高い丘に独自の存在感を示しながら建っています。



中谷宇吉郎 雪の科学館
●加賀市潮津町 MAP▶⑤加賀周辺



加賀片山津温泉 総湯
●加賀市片山津温泉 MAP▶⑤加賀周辺



石川県能登島ガラス美術館
●七尾市能登島向田町 MAP▶①C-2



那谷寺
●小松市那谷町 MAP▶⑤加賀周辺

●山上善右衛門の作品を味わい、シンプルモダンな現代建築を対比させる旅	
1日目	金沢駅/鼓門・もてなしドーム(午前発) = 車50分 = 氣多大社MAP▶①B-2 = 車10分 = 妙成寺 = 車90分 = 金沢湯涌温泉(泊)
2日目	金沢湯涌温泉(発) = 車20分 = 金沢21世紀美術館、鈴木大拙館、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 = 車60分 = 那谷寺 = 車20分 = 片山津温泉(中谷宇吉郎 雪の科学館・総湯) = 車70分 = 金沢駅(夕方着)



※車の所要時間はおおよそのものです。



重要伝統的建造物群保存地区の数が石川県は日本一

市町村が決めた「伝統的建造物群保存地区」の中で、国が価値が高いと判断したものが「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されます。2024年2月現在、日本全国の都道府県別では石川県の8地区がトップです。

金沢市東山ひがし

MAP▶②金沢市街 B-1



1820(文政3)年に「ひがし」の茶屋町として浅野川の東に創設された。保存地区内の建築物約140棟のうち約3分の2が伝統的建造物で、茶屋町創設時から明治初期に建設されたものが多く、その約9割が茶屋の様式の町家。

金沢市主計町

MAP▶②金沢市街 B-1



浅野川沿いの表の通りとそれに平行する裏の通り、それらと直交する数条の路地が骨格をなす。町家は、切妻造平入、二階建を基本とし、浅野川沿いでは、茶屋町の最盛期に行われた三階の増築が往時の繁栄を伝えている。

金沢市卯辰山麓

MAP▶②金沢市街 A-1



卯辰山麓の寺町には、17世紀中期に至るまで段階的に寺院が配された。起伏ある山麓の地形にあって、江戸時代の切妻造平入や妻入の特徴ある寺院本堂が密度高く残り、歴史的風致をよく残す。

金沢市寺町台

MAP▶②金沢市街 C-2



藩政期に形成された三つの寺町のうち、ここは最大の寺院数を数えた。寺院周辺の町家とともにまとまりある町並みを形成している。旧鶴来道沿いには寺社門前地に形成された町家が連なる。

輪島市黒島地区

MAP▶①B-1



※「令和6年能登半島地震」の影響により
2024年2月現在、復旧・整備中

日本海航路による海運業の発展を背景に成長を遂げ、江戸中期に150戸程の家数は、明治前期には500戸を超え、集落は街道に沿って南北に伸びて現在の町並みの骨格を形成した。

加賀市加賀橋立

MAP▶⑥加賀周辺



江戸後期から明治中期にかけて建設された、北前船の船主や船頭等の家屋が残る。主屋は切妻造妻入で、外壁には日本海から吹きつける潮風を防ぐために、船板を再利用した堅板を張る。

加賀市加賀東谷

MAP▶①A-4



荒谷、今立、大土、杉水の4集落およびこれらを結ぶ河川、旧道から成る。主屋は前広間型の間取りを持つ2階建ての切妻造妻入で、4面に下屋を廻らし、大屋根には煙出しを設け、屋根と庇を赤褐色の棧瓦で葺く。

白山市白峰

MAP▶①B-4



冬期の積雪は2mを超える厳しい自然環境にあり、集落は手取川西岸の細長い河岸段丘上に形成される。雪下ろしの作業のために屋根にあがる大はしごが常設されているのも特徴的。



文学作品に描かれた地をめぐり、石川の神髄にふれる

井上靖「北の海」の舞台となった内灘海岸 ●河北郡内灘町 MAP▶①B-3

さまざまな文学作品の舞台ともなった石川の風土。ここでは文学作品の舞台となった地と、その背景についてご紹介します。

※本文は「名作の舞台をめぐる」をテーマに2023年12月以前に執筆されたもので、2024年「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

「天下の書府」を受け継ぐ

「加賀は天下の書府」とは、加賀藩5代藩主前田綱紀が収集した数十万点に及ぶ蔵書をさして新井白石が残した言葉です。綱紀は書籍の収集だけでなく、それら書物の保存・修復、学問の奨励に努めたと言われています。

このような学問奨励の風潮は明治になっても衰えることなく、北陸の人々の粘り強い気性と相

まって、石川の地には多くの思想界・文学界の偉人が誕生しました。

評論家の三宅雪嶺、「加賀の三太郎」と呼ばれた国文学者の藤岡作太郎、思想家の鈴木大拙(貞太郎)、哲学者の西田幾多郎は明治の社会をリードし、後世に大きな影響を与えました。

学問に熱心な土壌は、創作の世界でも大輪の花を咲かせました。俗に「金沢の三文豪」と呼ばれる泉鏡花、徳田秋聲、室生犀星は、幾つもの作品が舞台化・映画化され、現在でも多くの人々



金沢城外堀公園の白鳥路に建つ三文豪像
●金沢市丸の内 MAP▶②金沢市街 B-1



浅野川にかかる梅ノ橋と、「滝の白糸」像
●金沢市並木町 MAP▶②金沢市街 B-1



日本海に向かってそびえる「ヤセの断崖」。展望台や遊歩道が整備されている
●羽咋郡志賀町笹波 MAP▶①B-1
※ヤセの断崖および周辺の観光施設等については、2024年2月現在、復旧・整備中につきご注意ください



深田久弥の故郷・大聖寺(加賀市)から見る白山
撮影/榎典雅氏

に親しまれています。彼らが描いた故郷の風景、風情は人々の胸を打ち、物語の舞台である石川に足を運んでいただく大切な要因となっています。特に、幻想的な作風と絢爛な文章で読者を魅了した泉鏡花は、城下町金沢の街角に次々と異界への扉を開き、人々を迷宮に誘いました。

なかでも前田家藩主の私的な庭として造営された兼六園は、加賀藩御細工所に籍を置いた彼の父や祖父とのゆかりもあり、「滝の白糸」の外題でも知られる悲恋の物語「義血俠血」や銘木旭桜を恋慕う桜の精を描いた「桜心中」など金沢を舞台とする主要な作品に幽玄かつ、妖美な姿で描かれました。鏡花が描いた月と星と闇の結界に守られた人外の世界の物語は、「宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望」の六つを兼ね備えたとされ、命名された当時の姿を今に伝えてくれています。

豊饒な自然に育まれる物語

石川の美しい風景は、この土地で生まれ育った作家が描いた作品ばかりではなく、この

地を第二の故郷とした人たちが描写した作品の中にもその姿をとどめています。

1927(昭和2)年に旧制第四高等学校に入学し、金沢での3年間を柔道に明け暮れた井上靖は、その生活を『しろばんば』、『夏草冬濤』に続く自伝的小説『北の海』に仕立てています。現在のいしかわ四高記念公園にある赤煉瓦の校舎が描かれて

旧制第四高等学校の建物は、「石川四高記念文化交流館」として公開されている MAP▶②金沢市街 B-2
●金沢市広坂2-2-5 ☎076-262-5464
●多目的利用室 9:00~21:00、展示室 9:00~17:00、レトロミュージアムショップ・レトロ衣装体験ルーム 9:00~17:00
●石川四高記念館 無料/石川近代文学館 一般370円、大学生290円、高校生以下無料 ☎12/29~1/3、展示替期間、レトロミュージアムショップ・レトロ衣装体験ルームは水・木曜

※「令和6年能登半島地震」の影響により2024年2月現在、本館休館中につき最新の情報はWEBサイトをご確認ください。



いることはもちろんですが、波高い日本海を背景に内灘砂丘で少年たちが校歌放吟するくだりは、青春の姿そのものとして読者の胸を熱くします。井上が柔道部の仲間らと見渡した砂丘の大半は住宅地となってしまいましたが、大陸に向けて広がる海原や夜空に輝く北辰(北極星)、遠く金沢の町の灯を眺めながらガタゴトと走る小さな電車は今も当時のまま私たちを迎えてくれます。

日本海の雄々しく厳しい姿は、現代においても多くの作家の憧れと畏怖の心を喚起し、作品に描写されました。

松本清張の代表作『ゼロの焦点』は、運命に翻弄される女性たちの姿を描き、戦後日本の悲哀を能登の荒涼たる風景と共に描写しました。幾重にも重なり垂れ込める灰色の雲、横殴りの雪、逆巻く波濤は女たちの悲しみと共に、日本人の忘れられない歴史を今に問いかけています。

この作品は何度も映像化されており、殊にラストの「ヤセの断崖」のシーンは印象的で、後のサスペンスドラマにある、「刑事が犯人を追いつめるシーン」に断崖絶壁が定番になった所以とも言われています。

また、現在の百名山ブームをつくったのが加賀大聖寺出身の深田久弥が著した『日本百名山』です。彼の残した「日本人はたいていふるさとの山を持っている」という名言は、厳しく豊かな日本海、霊峰白山に抱かれつつ育まれた石川の豊饒な自然を言い表しているように思います。

絢爛な文化を雄大な自然で包みこむように育んだ石川の風土は、この地を訪れる方々にそのつど「新しい出会いと発見」をもたらすことと思います。ぜひ、文学に描かれた地を巡り、石川の神髄に触れる旅をお楽しみください。

文/石川近代文学館学芸員 宮本知穂

文学作品に描かれた地をめぐる旅

金沢駅(午前発) 車25分 → 内灘海岸 車25分 → 金沢駅 10分 → 浅野川界隈(梅ノ橋) 10分 → 兼六園
5分 → いしかわ四高記念公園 20分 → 金沢駅(午後着)・湯涌温泉(泊)または北陸新幹線で加賀方面へ

詳しくは
ほっと石川旅ねっとへ



※車の所要時間はおおよそのものです。🚲はレンタサイクル「まちのり」利用。

松尾芭蕉の
足跡をたどる



大聖寺川黒谷橋付近からの鶴仙溪。この景観を松尾芭蕉も愛でたであろう。紅葉の時期は芭蕉ならずとも手をたたきたくなるほどの見事な美しさ

芭蕉が歩いた小松、
山中温泉の旅

五・七・五のメッセージを追って小松へ、山中温泉へ。この地で芭蕉が感動した風景や土地の温もりなど、芭蕉の旅路を追体験します。

■ 土地の俳人と交歓した小松

月日は百代の过客にして(月日は永遠の旅を続ける旅人のようなもので)一。との冒頭文で始まる『おくのほそ道』。作者は言わずと知れた松尾芭蕉です。旅を愛した俳聖は1689(元禄2)年の3月、弟子の曾良を伴い江戸深川から奥羽、北陸への旅に出発。総行程2400キロ、5カ月におよぶ旅となります。

金沢を経て芭蕉一行が小松に到着したのは7月24日のこと。新暦では9月7日、秋風が萩やすきを揺らす頃です。本折日吉神社の神主が開いた句会に招かれた芭蕉は、「しほらしき 名や

小松吹 萩すすき」と詠みました。「小松とはかわいい名前ですね」との挨拶吟。句碑が日吉神社ほか市内3カ所にあります。

小松は寺社が多いまちで、芭蕉はあちこち訪れています。多太神社では、源平の合戦で討ち死にした斎藤別当実盛の兜を拝観し、「むざんな甲の下のきりぎりす」の句を奉納しました。

建聖寺でも地元の俳人と交流しており、金沢から芭蕉と同行した俳人・立花北枝が彫った芭蕉の坐像が残されています。

小松駅から各スポットへの移動には、電動アシスト自転車のこまつシェアサイクルが便利です。お腹がすいたら、芭蕉も食したと記される名物「小松うどん」をどうぞ。

■ 旅の疲れを癒やした
■ 山中温泉

小松に3日間滞在の後、山中の地で8泊9日の長逗留をした芭蕉は、「山中や 菊はたおらじ 湯の句」と当地の湯をたたえました。中国の桃源郷では、菊の露を飲んで長生きしたというが、この湯に浴せば寿命も延びるようで、わざわざ菊を手折る必要もない一との意味です。

温泉街の中心には、芭蕉の句にちなんで菊の湯と名付けられた総湯(共同浴場)があります。当時からこの場所で何度か建て直され、現在は男女別棟の立派な建物となっています。

さて、山中温泉には8泊にわたり逗留した芭蕉ですが、ともに旅を続けてきた曾良は途中体調を崩し、芭蕉より先に山中温泉を発ち別のルートを進むことに。菊の湯から少し先にある「芭蕉の館」の前には、その時の別れを惜しむふたりの石像と句碑が建てられています。



黒谷橋のたもとに建つ芭蕉をまつる芭蕉堂

旅のハイライトは、山中温泉の中でも随一の景勝地といわれる鶴仙溪です。芭蕉は、大聖寺川にかかる黒谷

《小松市内 芭蕉ゆかりの神社》

1 建聖寺
立花北枝が彫ったと伝えられる芭蕉木造(建聖寺蔵)

2 本折日吉神社
神主宅での句会に小松に滞在中の芭蕉を招いている

3 多太神社
多太神社にある芭蕉の句碑
多太神社の斎藤別当実盛の兜(国指定重要文化財)

橋の上からの眺めに「行脚の楽しみここにあり」と手を打って喜んだといえます。

また、芭蕉は温泉街を見下ろす高台にある医王寺を参拝しており、宝物館には「芭蕉の忘れ杖」が収められています。



山中温泉 芭蕉の館

MAP▶⑤加賀周辺
芭蕉が書き残した掛軸(複製)や扁額など多くの俳諧資料を公開展示。芭蕉について学ぶことができる。
●加賀市山中温泉本町2-86-1 ☎0761-78-1720
🕒9:00~17:00 🌊水曜
👉一般300円、高校生以下無料



山中温泉 菊の湯

MAP▶⑤加賀周辺
●加賀市山中温泉湯の出町1-1 ☎0761-78-4026
🕒6:45~22:00 🌋第2・4火曜
👉12歳以上490円、6歳以上130円、3歳以上50円、3歳未満無料

詳しくは
ほっと石川旅ねっへ



●芭蕉の足跡をたどる旅1泊2日

1日目	小松駅(発:こまつシェアサイクルを利用) = 自転車5分 = 本折日吉神社 = 自転車3分 = 多太神社 = 自転車8分 = 建聖寺 = 自転車5分 = 小松駅 = 車25分 = 山中温泉《泊》
2日目	山中温泉(発) 徒歩5分 鶴仙溪(黒谷橋・芭蕉堂) 徒歩5分 菊の湯 徒歩3分 芭蕉の館 徒歩10分 医王寺 車15分 加賀温泉駅

※所要時間はおおよそのものです。



外国客船の再来で、活気あふれる金沢港と金石・大野地区

2023年3月、3年ぶりに金沢港寄港となった国際クルーズ船。写真は「アマデア」 フェニックス・ライゼン社(ドイツ)／総トン数29,009トン／乗客定員約600人

最新鋭の大型クルーズ船「MSCベリッシマ」MSCクルーズ社(イタリア)／総トン数171,598トン／乗客定員約4,500人

国際クルーズが3年ぶりに再開した2023年、金沢港には国内外問わず47本ものクルーズ船が寄港しました。その乗客数は合計6万人に迫り、「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2023」特別賞を受賞した金沢港クルーズターミナルとその周辺は活気を取り戻しました。2024年はさらに多数のクルーズ船の寄港と賑わいが期待されています。

■ 国際クルーズ再開で ■ 港の賑わい戻る

待ちに待っていた日がやってきました。2023年3月10日、国際クルーズ船が金沢港クルーズターミナルに姿を現したのです。新型コロナウイルスの影響で国内への寄港が3年間停止されていた国際クルーズ。復活の汽笛を響かせたのは「アマデア」(フェニックス・ライゼン社)でした。2019年まで年間約50本程度のクルーズ船の

寄港があった金沢港ですが、コロナ禍により2020年の寄港はゼロに。そのコロナ禍のさなかである2020年6月に金沢港クルーズターミナルは開館。オープンから2年9ヵ月、ついに外国船を初めて受け入れました。

国際クルーズが再開した2023年、金沢港へ寄港したクルーズ船はのべ47本。うち35本が海外からのクルーズ船でした。「飛鳥II」「にっぽん丸」といった日本船はもとより、「クイーンエリザベス」「シルバーミュージズ」といったラグジュアリー



ライトアップされた金沢港を背景に浮かび上がる「シーニック・エクリプス」シーニック・クルーズ社(オーストラリア)／総トン数17,085トン／乗客定員228人



金沢港クルーズターミナル MAP▶①B-3 ●金沢市無量寺町リ65 ☎076-225-7030
 ●9:00～21:00(金沢港まなび体験ルーム 9:00～17:00/レストラン 10:00～21:00) ●12月29日～1月3日(レストランは月曜) ▼入館無料

客船や、「シーニック・エクリプス」「ヘリテージアドベンチャー」等の探検船、そして「ダイヤモンドプリンセス」「MSCベリッシマ」といった大型客船まで、さまざまなクルーズ船の寄港に沸きました。その乗客数は5万7,939人で、2019年の6万3,476人に次いで過去2番目の多さを記録。国内外の観光客で港が賑わった一年となりました。

■ 港町の風情あふれる金石・大野地区

クルーズ船の寄港にともない開催されたのが金石・大野地区の観光を楽しむモニターツアー。これは2022年3月に登録された「みなとオアシス金沢港」として、港の賑わいを周辺地域に広げる取り組みの一環です。

金石・大野地区は、北前船交易で栄えた古くからの港町。町並みの一部は「こまちなみ保存区域」として現在でも加賀藩政時代の面影が守ら

れており、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成文化財も有します。また、幕末に北前船交易で富を築き「海の百万石」の異名をとった銭屋五兵衛と北前船の歴史に触れることができる「石川県銭屋五兵衛記念館」や、数々の醤油や味噌の蔵元で港の栄華の跡を感じ取ることができます。

クルーズの乗客は、石川県内外の主要な観光地はもとより、金石・大野地区や、金沢港クルーズターミナルから徒歩圏内の「金沢港いきいき魚市」など、船旅ならではの見聞を深め体験を楽しみました。



金石・大野地区の観光を楽しむモニターツアーの様子



金沢港いきいき魚市 MAP▶①B-3
 ●金沢市無量寺町ラ52 ☎076-266-1353
 ●9:00～16:00
 ●水曜(祝日の場合は翌平日)

(一社)日本外航客船協会は、「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2023」の選考結果を発表し、金沢港クルーズターミナルが特別賞を受賞しました。金沢港としての受賞は3度目です。

■ 金沢港クルーズターミナルが特別賞を受賞

金沢港クルーズターミナルには、館内に地元の海産物を使用したレストランがあり、金沢港の歴史や港の仕事を学べる施設や、一般向けでは国内最大級の操船シミュレーターが設置されています。また、金沢港ライトアップなど多彩なイベントが好評を呼び、2023年7月、開館から約3年で来館者数がのべ200万人を突破。クルーズが来ない冬場も含め、通年で港の賑わいを生み出す取り組みを行い、新たな賑わい



クルーズ・オブ・ザ・イヤー2023授賞式にて

の拠点として定着してきたことが評価され、このたびの受賞につながりました。

■ 5年ぶりに コスタクルーズ金沢発着も復活

2024年も金沢港には多数のクルーズ船の来航が予定されています。なかでも注目を集めるのが6月15日および19日発予定の「コスタ・セレーナ」(コスタクルーズ社)です。金沢発着・日本海周遊クルーズの寄港地は韓国の釜山、福岡(19日発は下関)、舞鶴。いずれも4泊5日でめぐります。

コスタクルーズといえば2016年以来、金沢港を発着港にした日本海周遊クルーズを実施してきました。石川県民にとってもなじみ深いクルーズ船社でしたが、2020年からコロナ禍によって日本海周遊クルーズも休止していました。

5年ぶりのコスタクルーズ復活に象徴されるように、今年さらなるクルーズ船の寄港と、県民による賑わいで港が活気づくことでしょう。

文/航海作家 カナマルトモヨシ

クルーズ船入港情報についての
お問い合わせ



(一社)金沢港振興協会
☎076-254-0711



里山暮らし気分を堪能

石川県

深い田舎暮らしを体験する



春蘭の宿の田炉裏端でほっこり



大人も童心にかえって川遊びを楽しむ



「おふくろの味を思い出す」と評判の料理



稲刈りとハサ干し体験

人情も自然も豊かな石川の山間地では、日本一の農家民宿群をはじめ、とても居心地の良い滞在ができます。「いっそ移住しちゃおうか?」そんな思いも募る、上質な旅がここで実現できます。

※本文および掲載写真は、2023年12月以前に作成・撮影されたもので、2024年「令和6年能登半島地震」以降の状況とは異なることをご了承ください。

■ 「ここでしかできない田舎体験旅行」が人気

世界農業遺産に認定された能登には、農業体験や田舎暮らし体験ができる宿泊施設がいくつかあります。その代表格が能登町の「春蘭の里」です。40軒以上の農家民宿が登録(2023年2月現在)され、その規模は日本一といえます。

各家が手作りした箸を使う、輪島塗のお膳と器を使う、料理に砂糖と化学調味料は使わない、

海の魚は出さない、そして、1軒に一日一客(一組)しか入れないなど、最低限の共通ルールはありますが、それ以外はそれぞれの宿任せ。1軒貸切りとなるため、子どもが騒いでも文句を言われないし、逆に静かに過ごしたかったのに他の客が大騒ぎして台無しにされることもありません。薪を割って風呂を焚いたり、カマドでご飯を炊いたり、春の田植えや山菜採り、夏はホテル狩り、秋は稲刈りやキノコ狩りなど、懐かしい体験プログラムが豊富なことが人気です。

また、縁側で昼寝をしたり、囲炉裏に当たりながらの思いに耽ったり、何もしない贅沢を味わいにやってくる方も多くとか。「客が思う田舎でいたいこと」に、時には全力で応援し、時にはそっと寄り添ってくれる、それが農家民宿の魅力です。

「ここには田舎ではあたり前のものしかありませんが、それが良いと皆さん言ってくださいます。大きな観光地に飽きた方にはぜひおすすめしたい旅先です」(春蘭の里事務局長の多田喜一郎さん)

能登での体験が“心のよりどころ”となるために



能登半島の山あいには、春蘭の里のように、里山の恵みを受けた暮らしと自然の魅力を生かした農家民宿が数多くあり、田舎時間でゆったり過ごせる環境を提供してきました。

本来の機能を取り戻すことはできていませんが、春蘭の里では、再度、国内外からの訪問者の笑顔に出会うため、復興に向けた取り組みを続けています。(2024年2月末)

春蘭の里 MAP▶①C-1
●鳳珠郡能登町宮地 ☎0768-76-0021(春蘭の里事務局)
<https://shunrannosato.info>



石川県の「ほっと石川旅ねっと」では、「能登情報」の提供を始めています。能登の魅力の新発見・再発見のため、ぜひご覧ください。

石川県への移住をお考えなら「いしかわ暮らし情報ひろば」へ移住に役立つ情報が盛りだくさん!

●お問い合わせ
いしかわ「第二のふるさと」推進実行委員会
(石川県地域振興課内) ☎076-225-1312



■ 暮らすように石川を楽しむ

加賀市山中温泉から車で20分あまりの山奥にある「杉水町」には、快適に滞在できるようリフォームされた貸古民家が2棟あり、自炊すればより本格的な田舎暮らしが体験できます。「赤瓦と煙出しの里」として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されているここには、評判のそば屋やカフェもあり、食事付きの宿泊も可能です。



古民家の宿 忠平



蔵やど 与平の風呂

古民家の宿 忠平・蔵やど 与平 MAP▶①A-4
●加賀市山中温泉杉水町 ☎0761-78-1853 または 090-2834-6388
<https://hyaku-warai.jp/> ●1棟素泊まり4名まで27,500円(5名~8名の場合はお1人6,600円×人数分、それ以上は要相談)。自炊をする場合、簡単な調理器具と調味料は用意してあります。四季折々のイベントも充実



農山村の自然と風土を五感で感じる
キンシュレ
河愛の里 Kinschule

MAP▶①B-3

小学校の改修費を、村民が禁酒による貯金で捻出、工面したことで知られる津幡町河合谷地区。当時の木造校舎をイメージして作られた宿泊体験交流施設です。河合谷の自然環境を生かし、農業体験や自然観察など通して、農山村の伝統や文化、暮らしの知恵などを五感で感じてもらうためのプログラムが充実しています。



●河北郡津幡町下河合〒55 ☎076-287-1086

石川で「温泉×それぞれの魅力」を楽しむ



山代温泉に2軒ある公衆浴場のひとつ「古総湯」。明治時代の総湯の外観や内装を復元、「湯あみ」という温泉に浸かって楽しむ当時の入浴方法も再現している

日本人にとって「温泉」は格別な楽しみ方のひとつ。石川にも歴史と情緒ある温泉地が数多くあり、湯と美食と美景のおもてなしで人々の心をつかんでいます。良質の湯と、周辺の自然、歴史・文化、食などの魅力をかけあわせて、さらに深く温泉地ステイを満喫しましょう。

■ 多種多様な温泉地の楽しみ

日本人は古くから温泉の湧き出すところに滞在し、病や傷を癒す湯治文化を育んできました。石川県内でも温泉地ごとに独自の多様性をもち、観光地としての魅力にもあふれています。そこで、2024年3月、北陸新幹線石川県内全線開業により、小松駅、加賀温泉駅からの交通の利便性が高まる加賀温泉郷の山代、片山津温泉はじめ、小松市のあわづ温泉につい

て、「温泉×それぞれの魅力」の楽しみ方を提案します。

ここで紹介する「あわづ温泉」「片山津温泉」「山代温泉」のほか、「山中温泉」については、本誌「もっと15」(P42)をご覧ください。さらに石川県には白山温泉郷(白山市)、辰口温泉(能美市)、湯涌温泉(金沢市)、和倉温泉(七尾市)、輪島温泉郷(輪島市)ほか、多種多様な魅力にあふれる温泉地が点在しています。旅の始まり、旅のアクセントに温泉地泊を選ぶのも、石川を旅するツウな選択といえるでしょう。

【あわづ温泉×石の文化】

小松市のあわづ温泉は、718(養老2)年開湯の北陸最古の温泉です。白山を開山した^{たいら}泰澄^{しょう}大師が夢のお告げどおりに掘ったところ、温泉が湧き出したという話が伝わります。このとき泰澄が弟子に湯守りを任せた湯治宿は、今も旅館として営業を続けています。



国指定重要文化財の那谷寺本殿・大悲閣



那谷寺の見どころのひとつ奇岩遊仙境



開湯718(養老2)年の歴史を誇るあわづ温泉旅館のひとつ

あわづ温泉からほど近い那谷寺は、同じく泰澄が717(養老元)年に開創した古刹で、あわづ温泉とともに1300年以上の歴史があります。小松は日本遺産に認定された「石の文化」のまち(※本誌P22参照)で、石にまつわる多彩なスポットがあり、那谷寺もそのひとつ。岩山の斜面に建てられた本殿・大悲閣(国指定重要文化財)や名勝・奇岩遊仙境が、独特の景観を生み出しています。

【片山津温泉×現代建築】

柴山湯のほとりの片山津温泉は、江戸時代に湖底の温泉が発見され、明治に入って温泉地として開発されました。ミネラル成分を多く含む湯は疲労回復効果が期待されます。加えて、白山を望む柴山湯湖畔の美しい景観とともに、環境を取り込んで設計された建築物に出合えるのも魅力のひとつ。



柴山湯の湖畔にたずむガラス張りの建物の加賀片山津温泉総湯



柴山湯と白山を借景として建つ中谷宇吉郎雪の科学館



柴山湯から望む白山

ガラス張りの外観の総湯(共同浴場)は、国内外のミュージアムの設計で知られる建築家・谷口吉生氏によるもの。浴室から眺める風景は一枚の絵画のようです。

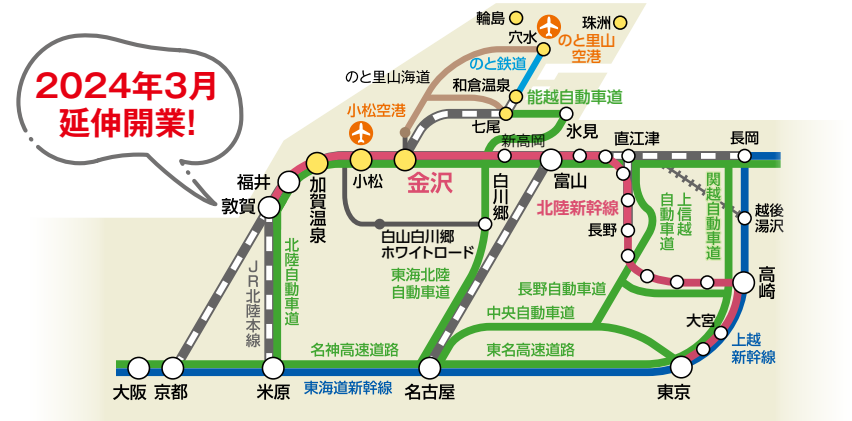
「中谷宇吉郎 雪の科学館」は、世界で初めて人工雪を作ることに成功した当地出身の科学者・中谷宇吉郎を記念する施設で、建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞した磯崎新氏の設計。館内のカフェは、柴山湯越しに白山を望む特等席です。

石川県産の素材をふんだんに用いた店内で、食品や雑貨、伝統的工芸品などの特産品の販売はもちろん、観光情報の発信や多彩なイベントの開催などを行う石川県のアンテナショップです。東京八重洲で石川県を実感してみませんか。



東京都中央区八重洲2丁目1-8 八重洲ビル1階 ☎03-6225-2177
営業時間/10:30~20:00 年中無休(年末年始除く)
アクセス/JR「東京駅」徒歩3分 東京メトロ銀座線「京橋駅」徒歩5分

【金沢-東京間】 最速2時間25分 北陸新幹線	【金沢-名古屋間】 最速2時間9分 東海道新幹線=特急しらさぎ=北陸新幹線	【金沢-大阪間】 最速2時間9分 特急サンダーバード=北陸新幹線
-------------------------------	---	--



写真提供

金沢市/七尾市/小松市/輪島市/珠洲市/加賀市/白山市/内灘町/志賀町/宝達志水町/中能登町/能登町/一般社団法人 金沢市観光協会/一般社団法人 白山市観光連盟/加賀市観光情報センター KAGA旅・まちネット/石川県白山自然保護センター/石川県金沢城・兼六園管理事務所/石川県自然解説員研究会/PIXTA

- 本文に掲載している住所・電話番号・営業時間・定休日・料金などの表記情報は2023年2月~2024年2月時点で確認したものです。発行後に内容が変更となる可能性があります。
- 料金は消費税込み表記です。

□表記記号一覧

☎…電話番号 ●…営業時間 ●…入館料・入園料など(無料の場合や団体割引などは省略) ●…定休日など(年末年始の日にち詳細、臨時休業、お盆休みは省略)

<必ずお読みください>

掲載の写真およびイラストはイメージです。気候や自然条件などにより掲載記事・写真と同様の景色が見られない場合があります。ガイドブックに掲載された内容により生じたトラブルや損害などについては保証いたしかねますのでご了承ください。

きが楽しい温泉地です。

山代温泉を訪れたなら、新しいご当地グルメをお見逃しなく。ランチには橋立漁港で水揚げされた雌のズワイガニを使った「加賀カニごはん」を、3時のおやつには地場の食材を使って5層に仕上げた「加賀パフェ」を楽しめます。うつわは九谷焼と山中漆器を使用しており、伝統工芸の魅力も味わえます。



一度は食べたい「加賀パフェ」(上)と「加賀カニごはん」(下)



元気な能登で
温泉ふたたび!

七尾市の和倉温泉では、2024年1月16日、震災の影響で止まっていた源泉の無事が確認されました。90℃近くある天然温泉が湧き出しており、各旅館への源泉送湯をめざしています。

また、JR七尾線では金沢駅から和倉温泉駅までの運転を2024年2月15日より再開。観光列車「花嫁のれん」についての運行再開も待たれています。幸せを運ぶ特別な列車に乗り、車窓を流れる風景をのんびり眺め、和倉温泉へいざ出発となる日が一日も早く、訪れますように!(2024年2月末日)

JR西日本列車運行情報
北陸エリアはこちらから



【山代温泉 × ご当地グルメ】

薬師山のふもとに立地する山代温泉は、白山へ向かう途中の行基が発見したと伝わります。江戸時代には総湯を囲むように宿が立ち並び、「湯の曲輪」とよばれるまちなみが形成され、今もその情緒あふれる景観が見られます。再興九谷の拠点としても知られ、ここで陶芸の手ほどきをうけた北大路魯山人の足跡も残る、そぞろ歩



ライトアップされた山代温泉古総湯



日本の温泉文化を
ユネスコ無形文化遺産へ

「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録を目指して活動する、「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会が実施した、温泉/ONSENシンボルマーク公募によるロゴマークが、このたび決定しました。石川県でも、賛同する知事らでつくる「温泉文化ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会」事務局として登録に向けた活動に取り組んでいます。

○決定したロゴマーク



おいしい いしかわ 「食」のガイド

※農業の食べものに関する本文および掲載画像等の情報は2023年12月現在のもの、最新の状況には対応していないことをご了承ください。

農業不使用の希少な果実 国造ゆず



農業や化学肥料を使わず有機肥料だけで栽培され、生産量が多い年でも年間約10トンと希少なゆず。毎年11月に開かれる「国造ゆず祭り」では、生のゆずやジャム、ジュースなどの加工食品、ハンドクリームなどの化粧品が販売されます。

能美市産業交流部農林課
☎ 0761-58-2256

野菜&果物

原木の養分をたっぷり蓄えた濃厚な味のとてまり



大型で肉厚なのが特長の能登産原木しいたけ【のと115】。その中でも、さらに厳しい規格を満たした最高のしいたけが「のとてまり」です。一つひとつ手間暇かけて栽培され、肉厚の食感と深い旨味に優れています。出荷は12月下旬～3月末。

奥能登原木しいたけ活性化協議会 ☎ 0768-52-1240

丹精込めて栽培された懐かしの味 小松とまと




春から秋にかけて太陽の恵みをたっぷり受けて育った小松とまとは、果肉が柔らかく、ほどよい酸味も特長です。カレーやジャム、ジュースなど加工品も豊富で、栄養たっぷりのトマトのおいしさを季節を問わず楽しめます。

小松市農林水産課 ☎ 0761-24-8078

おいしいでユニークなレシピを集めた冊子もWEBで公開中！

手間暇かけて作る絶品の干し柿 能登志賀ころ柿



秋に収穫された柿を、竿に吊り下げてゆっくり自然乾燥させてから、さらに室内にて甘みが増すまで日を置き、最後に手でもみあげて仕上げた志賀町の特産品。上品で奥深い甘さが楽しめる、贈答品としても人気です。

JA志賀 ☎ 0767-32-1155

魚介類&食肉

伝統の素揚げととる天然ガキ 夏の岩ガキ



「夏ガキ」とも呼ばれ、6月下旬～8月上旬が食べ頃です。一般的に冬場が旬のマガキよりも大きくて、ブリブリの食感と濃厚な味わいが特徴です。海底の岩について成長するため、海士さんが一つひとつ採取しています。

石川県漁業協同組合 ☎ 076-234-8815

石動山系の清らかな水で仕込む里山の酒 中能登町のどぶろく



どぶろく醸造の認められた神社が3社ある中能登町。全国有数ともいえるその数から、「どぶろく特区」に認定されています。12月12日にはシーズンの到来を告げる「どぶろく宣言」が出され、新酒が楽しめる12～翌2月は町内でさまざまなイベントが開かれます。

中能登町企画課 ☎ 0767-74-2806

町内の道の駅や農家レストランで購入可能！

ジュースで上品な甘さの新品種のなし 加賀しずく



2017年に市場デビューした新品種のなしです。よく知られる幸水より一回り大きく、酸味をおさえた上品な甘みとなめらかな食感が特長。金沢市、白山市、加賀市が産地で、8月下旬～9月中旬が旬。

石川県農林水産部ブランド戦略推進室 ☎ 076-225-1111 (代表)

艶のある赤色が鮮やかな激辛唐辛子 剣崎なんば



剣のように先が尖った形状が特徴的な唐辛子。鷹の爪など普通の唐辛子と比べると長く、大きなものでは15cmにもなります。激辛ですが後味はほのかに甘く感じられ、一味唐辛子、なんば味噌、葉つくだ煮、カレーなどの加工品も人気です。

白山市地産地消課 ☎ 076-274-9522

ルビ生まれの日本一高級なぶどう ルビーロマン



初競りで一房100万円を超える高値をつけたことでも知られる「ルビーロマン」。鮮やかな赤色をした果粒を一粒口に入れば、酸味の少ない甘い果汁が口の中にとろり広がります。出荷の最盛期は8月中旬～9月中旬

石川県農林水産部ブランド戦略推進室 ☎ 076-225-1111 (代表)

海女さんがとる海のお宝 輪島海女採りあわび・さざえ



輪島市沖合の船島島・七ツ島周辺では、7月から9月にかけて海女さんが素揚げ漁を行っています。天然のアワビは身が厚く、甘さや歯ごたえの強さが特徴。岩場でとれるサザエは砂噛みが少なく、ワタまでおいしい味わえます。

石川県漁業協同組合 輪島支所 ☎ 0768-22-1485

伝統漁法で捕らえる天然鴨 坂網鴨



石川県有形民俗文化財に指定される伝統漁法「坂網漁」で捕った野生の鴨を「鴨のじぶすき」などの郷土料理で食します。年間200羽前後しか捕れず、冬にししか食べられない貴重な味わいは「究極」とも言われます。

加賀市観光情報センター KAGA旅+まちネット ☎ 0761-72-6678

能登産ブドウを使用 能登ワイン



穴水町には日本海側最大級のブドウ畑があり、単一品種のブドウを用いた本格的な生ワインが製造されています。「日本ワインコンクール」で金賞を受賞するなど、能登産ブドウと醸造技術は全国でも高く評価されています。

能登ワイン ☎ 0768-58-1577 ☎ 9:00～17:00 (12～翌2月は16:30まで) ☎ 年末年始 (12/31～1/2)

金沢市民が愛する調味料 大野醤油



北前船の寄港地であった金沢の大野地区では、小麦や大豆、塩などの調達が容易であり、藩政時代より醤油産地として栄えました。現在でも醸造業者が残り、金沢の料理屋の多くが大野醤油で味をまとめているといわれています。

大野醤油醸造協業組合 ☎ 076-268-1301

甘さの中に醤油の香!

登録無形民俗文化財 いしり・いしる



「いしり」や「いしる」などの呼び名がある能登の魚醤は、イワシやサバ、真イカの内臓を塩とともに1年以上発酵させる伝統製法で作られています。煮物はもちろん、パスタや炒めものにも使える万能調味料です。

能登いしり・いしる生産者協議会 ☎ 0768-62-0181

多彩なバリエーションで能登の幸を堪能 西能登おもてなし丼



志賀町をはじめとした能登の新鮮な食材をふんだんに使うのはもちろん、おもてなしの心も盛り込んだご当地メニュー。丼だけでなく、重、御膳、プレートなど料理や提供のバリエーションも豊富です。

志賀町観光協会 ☎ 0767-42-0355

町内の各店舗で多くのメニューが味わえます

「オムライスの父」の故郷にちなんだ 宝達志水オムライス



宝達志水町出身のシェフ・北橋茂氏が考案したといわれるオムライス。その縁から宝達志水町は「オムライスの町」と呼ばれるようになりました。町内各店舗で特色あるオムライスが堪能できます。

宝達志水町商工観光課 ☎ 0767-29-8250 (平日のみ)

お店ごとに特色ある味を楽しんでみて!

卵かけご飯を香ばしくアレンジ つるぎTKGY



TKGYはT=たまご、K=かけ、G=ごはん、Y=焼きの略称。石川県産米を白山麓の伏流水で研ぎ、鶴来由來の醸造品(醤油・味噌・酒・酢)で調理します。だしを利かせ、焼きおにぎり風に焼き上げた味わい深いご当地グルメです。

鶴来商工会 ☎ 076-273-2211

各店が工夫を凝らしています!

野々市キウイから作られたワイン・醸造酢 キウイフルーツワイン・キウイフルーツピネガー



野々市市特産の完熟キウイだけを使ったワインは、やや甘口で程良い酸味を感じるフルーティーな味わいが特徴。フルーツピネガーは、キウイ独特のさわやかな酸っぱさを感じられる果実酢に仕上がっています。

JAのいち ☎ 076-248-8954

香り高い、県民が愛するお茶 加賀の椿茶・加賀の紅茶



茶葉ではなく茎を焙じた「椿茶」は、香ばしさとすっきりした飲み口で県民の普段使いの茶として親しまれています。2009年に誕生した「加賀の紅茶」は、加賀産茶葉を100%使っており、コクがあり果実のような香りが特徴です。

打越製茶農業協同組合 ☎ 0761-74-0390 (日曜 8:30～12:30のみ)

特産ミルクを生かしたオリジナルメニュー ミルク王国ウチナダ



県内の牛乳生産量の約5割を占める内灘町では、おいしいミルクを味わってほしいとの思いから「ミルク王国ウチナダ」が誕生。認定店ではソフトクリームにカレー、ラーメンまでオリジナルメニューが揃っています。

内灘町商工会 ☎ 076-286-4200

濃厚な牛乳の旨味が自慢です!

五感で味わう季節の甘味 金沢の和菓子



藩政期より和菓子文化が根付く金沢では、茶の湯で供する上生菓子のほか、季節ごとの和菓子も充実。お正月の「福梅」「辻占」や、ひな祭りに欠かせない「金花餅」(写真)など、四季を五感で楽しむ金沢の和菓子をごぞろお楽しみあれ。

石川県菓子工業組合 ☎ 076-221-8366

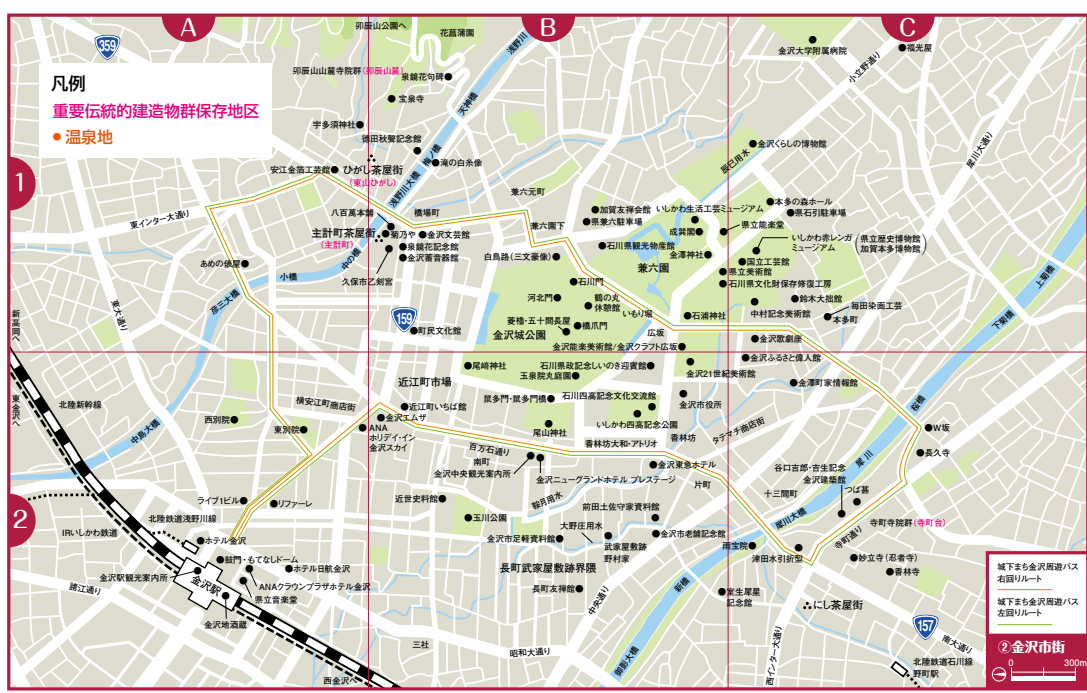
小松市民のソウルフード 小松塩焼きそば



60年以上の歴史の中で小松市民に愛されてきた小松塩焼きそば。地元の製麺所で作られた太麺に新鮮な野菜や、地元産のネギを加え、塩と醤油で味と香りをつけ、人参が彩りを添えたもので、小松市内の7軒の中華料理店で提供されています。

小松市商工労働課 ☎ 0761-24-8074

写真提供: プリルオーツカ



お問い合わせ

- 《観光案内》**
- (公社) 石川県観光連盟 (076) 201-8110
 - 金沢駅観光案内所 (076) 232-6200
 - 金沢中央観光案内所 (076) 254-5020
 - 石川県観光企画課 (076) 225-1542
 - (一社) 金沢市観光協会 (076) 232-5555
 - (協) 兼六園観光協会 (076) 221-6453
 - NPO法人能登すずなり (0768) 82-4688
 - (一社) 能登半島広域観光協会 (0768) 26-2020
 - 能登島観光協会 (0767) 84-1113
 - 能登の旅情センター(のと里山空港内) (0768) 26-2555
 - 輪島市観光協会 (0768) 22-6588
 - (一社) 志賀町観光協会 (0767) 42-0355
 - ななお・なかのとDMO (0767) 62-0900
 - はくい市観光協会 (0767) 22-5333
 - (一社) 白山市観光連盟 (076) 259-5893
 - 白山市観光情報センター (076) 273-4851
- 《観光案内》**
- 加賀市観光情報センターKAGA旅・まちネット (0761) 72-6678
 - (一社) こまつ観光物産ネットワーク (0761) 21-8208
 - 観光案内センター (0768) 22-1503
- 《県外観光案内》**
- 八重洲いしかわテラス (03) 6225-2177
 - 石川県東京事務所 (03) 5212-9168
 - 石川県大阪事務所 (06) 6363-3136
 - 石川県名古屋観光物産案内所 (052) 261-6067
- 《ホテル・旅館》**
- 石川県旅館ホテル生活衛生同業組合 (076) 263-5777
 - 金沢市旅館ホテル協同組合 (076) 221-1147
- 《温泉》**
- (一社) 山中温泉観光協会 (0761) 78-0330
 - 山代温泉観光協会 (0761) 77-1144
 - 片山津温泉観光協会 (0761) 74-1123
 - 粟津温泉観光協会 (0761) 65-1834
 - 湯涌温泉観光協会 (076) 235-1040
 - 和倉温泉観光協会 (0767) 62-1555

①もっと石川全県図
0 10 20Km

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図を複製したものである。(承認番号 平 26 情復 第 720 号)

